

## 西洋哲学入門 第 1 回, 第 2 回 (2019.10.02.)

## 1. 教室などに関する要望

・教室を変えてほしい／少しせまいなと思います。

→ 他の教室を探していますが、可能性があるのは、教育の K217 です。

5 ・うしろの白板を見るのが辛いので教室を変られなくても机の配置をどうにかしてほしい／ふりむいて白板を見るのは正直辛い。

→ 検討します。

・寒かったです。冷房でノドが痛くなりました／空調が少し寒い。外との温度差が大きすぎるように思う／寒かったです。冷房をある程度ひかえていただきたいなど。来週からは、私も厚着してきます。

10 → 寒いとか暑いとかいうときは、授業中でも遠慮せずに言って下さい。私の温度感覚がおかしい場合がありますので。

## 2. 何故、授業を受講したのか？

・教免の単位として。(1)

15 ・自由選択の単位が必要だから。(1)

・哲学に興味があったから／哲学に魅力があるから、等 (6)

・哲学に関する知識・理解を深めたいから／哲学の流れ？を知る上で西洋哲学に少しでも触れたいと思った。(2)

・高校の頃、倫理学 (ママ, 倫理) の授業で思想を習うのがたのしかった... (1)

20 ・2年生から西洋哲学コース (ママ, 分野) で研究していきたいと考えているから／西洋哲学が第一志望だったから。(2)

・東洋ではなく西洋 (の) 哲学者の考えが好きだからです。(1) → 東洋の思想も学んで下さい。

・先生の授業で経験した「脱線」のお話が面白くて。(1)

25 ・先生が僕のことを覚えてくれたから (ラテン語は取ろうか迷っています)。(1) → 登録期間は終わりましたが、ラテン語はとったほうがよいです。

## 3. 授業内容に関する質問・要望等

Q.1 授業の行きつく先が分からない。

30 A.1 私もわかりません。すみません。これは、カリキュラムに関する、アトキン (ズ) の「工学的アプローチ」と「羅生門的アプローチ」のうち、後者のタイプの授業に分類されることになると思います。

Q.2 ...正直、このコースではどのような内容の授業をやるのかがはっきりとは分からなかった。

A.2 すみません。まだ、そういうことは説明していませんでした。これから、少しずつお話ししていくことにします。

35 Q.3 哲学の入門書や初心者のための本等を紹介してほしい。

A.3 前回は、野田又夫先生の『西洋哲学史』(2017, ちくま学芸文庫) を紹介しましたが、私が読んでこれはよいと思うものを紹介していきますので、図書館や書店で手にとってみてください。

Q.4 人の話を聞いたり文章を読んだりする時にその都度食って掛かる癖がついてしまいそうというかつているので困っている (と授業を受けていて感じた)。

40 A.4 本を読んでいるときには、論理的に整合性のあることならば、それはよいことですが、面接や授業などで、他人を相手にしているときは、場をわきまえて、おさえる必要もあるでしょうね。

Q. 5 人名はもちろん、基本的な哲学に使うような用語を理解していない部分があることを改めて実感した。少し不安である。

A. 5 これから学んでいけばよいので心配はいりません。知らなかった人名や言葉がでてきたら、その都度、自分でも調べて書きとめておくことです。そして、間違いに気づいたり、追加情報があれば、書き加えていけばよいのです。

Q. 6 ……選択した言語がスペイン語で、ドイツ語を学んでいないので哲学は学ばせてもらえないのではないかと心配でしたがその懸念が晴れて良かったです。

A. 6 そうとも言えません。どうしてかをお話ししましょう。ノートをとる用意はいいですか？

Q. 7 想像していた授業とはだいぶ違ったが、色々な意味で面白いと思った。

A. 7 「色々な意味」とは、どんな意味か教えて下さい。また、想像していた授業はどんな授業で、実際の授業がそれとはどう違っていたのかも。

Q. 8 今日の授業は日本に来て最初の授業です。中国とは全然違います。……

A. 8 日本で最初に受けた授業が、私の授業で申し訳なく思います。

Q. 9 今日配られた哲学と哲学史研究を読んで、哲学をする人でも懐古的な考えを持つ人と革新的な考えを持つひとがいて、意見が分かれているんだと知れた。

A. 9 「懐古的」というのが、どういう意味とニュアンスで言われているのか、気になるところですが、自分はどうなのでしょう。これら二つの考え（というか姿勢というか研究態度・方法）は、実は、排他的ではなくて、ある一定の割合で、両方が同時に必要である、ということに気づく必要があるのですね。その上で、自分はどうするか、ということになるのでしょうか。

Q. 10 正直に言うと、なぜ *Phoenix* ではなく *Phoenix* とすべきなのか（語源をなぜ大切にすべきなのか）分かりませんでした。言語学的に語源を大切にすることの意味を知りたいです。

A. 10 正直に言ってくれてありがとうございます。リーフレットの表紙の例は、デザインの問題ですから、どういう表現をしても、それは表現する人の自由です。しかし、例として見てもらった表紙の場合は、デザインとしてはよいのだけれども、ギリシア語とラテン語の知識のある人が見ると、違和感を感じるデザインだということです。そして、これは、個人の作品であれば、個人の作品に対する評価ですみませんが、大学という組織の公式の印刷物ですから、世界中の大学関係者がこれを見た場合、広島大学には、ギリシア語とラテン語がわかる人がいないのか！と思われても仕方ないということを行っているのです。

件（くだん）の表紙の例は別にして、もっと、実用的な例をみてみましょう。

Q. 11 哲学史と倫理学の違いは何でしょうか？（自分でも調べてみます。）

A. 11 ことばの整理をすると、「哲学」とその歴史としての「哲学史」と、「倫理学」とその歴史としての「倫理思想史」という使い方が、おそらく、よいでしょう。そうすると、考えるべきは、この場合、「哲学」と「倫理学」の違いは何か？ということになるでしょう。

さて、これを例を挙げて説明しようとする、もう授業内容の一部になりますね。

なお、次のものを各自で読んでおいて下さい。

（私の他の授業でも紹介しているので、すでに読んでいる人は結構です）

→ 授業用 Web サイト 各講義・共通のファイルを参照。

C\_5 「哲学と出会えるまで」（『人文学へのいざない』初版より）：pdf ファイル

C\_6 「学部生の頃」（『人文学へのいざない』第2版より）：pdf ファイル

## 西洋哲学入門 第 3, 4 回 (2019.10.09.)

1. 「今まで、何語を学びましたか、または、今、学習中ですか」に対する回答は、以下の通り。

英語 (16 名), ドイツ語 (10 名), 日本語 (7 名), ラテン語 (4 名), フランス語 (3 名), スペイン語 (3 名), 中国語 (2 名), 韓国語 (1 名), ロシア語 (1 名)

5 全体で 19 名の出席者中 17 名からの回答で、一人で複数回答しています。母国語を書かなかった人もいられるでしょうから、中国語と日本語を理解する人の数はもっと多いと思われます。

例年は、(古代)ギリシア語、アラビア語、サンスクリットなどを学びつつある人もいますが、今年は書くのを遠慮したのか、おとなしいですね。せっかく、それらを学べる大学にいるのですから、それを学ばないで損をしているとは思いませんか。

10 将来、哲学を続けていこうと思う人は、できるだけ若いうちに(つまり、追加で授業料を払わなくてよい大学にいるうちに)、英独仏希羅(つまり、英語、ドイツ語、フランス語、ギリシア語、ラテン語)の 5 つは、マスターしようなどと思う必要はないですから、文字と発音、それに初級文法くらいは知っておくようにすることを勧めます。

この授業では、西洋古典語(ギリシア語・ラテン語)と西洋近代語(イタリア語、フランス語、  
15 ドイツ語、オランダ語、英語など)の文献に言及することが多くなるかもしれませんが、原則として、原典とその日本語訳を併記して示しますので、原典の部分を読めなくても心配はいりません。安心して下さい。

## 2. 授業内容に関する質問・感想等

Q. 1 1 限なのでねむい。少し聞きのがすとすぐに理解が追いつかなくなることが多々あった。

20 Q. 1' スピードが速いので、ときどき重要な内容をつかめなかった。

A. 1, 1' 目が覚めるような授業ができなくて申し訳ありません。私も眠いです。この部分は脱線だと思ったら寝ることにすればどうでしょう。しかし、そうすると、授業中、ずっと寝ることになるかもしれませんが。

また、意識してゆっくり話すようにしますが、つい、速く話してしまうと思うので、聞きとれ  
25 なかったときは、遠慮せずに、授業中に質問して下さい。

Q. 2 ドイツ語の man を「人」と訳するのがよくないのはなぜ?

A. 2 何も考えないで、条件反射的に(機械的に)、「人」と訳するのがよくないので、考えた上で「人」と訳すなら仕方ないでしょう。不定代名詞 man は、文脈によって、「世人」「われわれ」「かれら」「私」などを意味します。因(ちな)みに、man の 2 格、3 格、4 格はわかりますか。フランス語の on も同様に文脈を考えて訳す必要があります。  
30

また、例えば、er には、蔑称としての二人称があつて(自分で使う機会はないでしょうが)、ベルクのオペラ「ヴォツェック」の冒頭のところに出てきますが、これを知らないとい何を言っているのかわかりません。

実際の会話では、その場で意味をとるしかありませんが、テキストを読むときには、条件反射  
35 的に考えずに訳すのではなくて、考えて意味を捉えることが必要です。

Q. 3 広義の哲学と狭義の哲学は何? 西洋哲学史の起源は何?

A. 3 ストレートな質問で結構です。アリストテレスの学問分類で示したように、広義の哲学は、(ギリシア人にとっては)ほぼ全ての学問と同義です。その中に、狭義の哲学(存在論、認識論などを内容とする、第一哲学、形而上学など)、自然学、倫理学、政治学、創作論(芸術論)など  
40 が含まれます。

「西洋哲学史の起源」というと、1) 西洋の哲学が何から始まったのか、という問いと、2) 「西洋哲学史」という学問がいつから（誰によって）始まったのか、という問いのどちらか、が考えられます。1) ならば、多くの「西洋哲学史」は、タレースから始まった、ということになっていますし、2) ならば、著作として残っているものとしては、アリストテレスの『形而上学』の第1巻が、アリストテレスの直前まで（つまり、プラトンまで）の「西洋哲学史」の記述になっています。

Q.4 レヴィナスの意見はとても無理やりに感じます。レヴィナスを支持している論をもう少し読んでみたいです。今、総科（=総合科学部）で倫理学、こちらで哲学を学んでいて、どちらが上とかはきつとないものなんだろうなと思います。全てを学ぶ上で哲学は大切だし、人間として生きていく上で倫理学は大切です。

Q.5 前回の授業でした質問（哲学と倫理学の違い）に対して丁寧に答えて下さりありがとうございました。感想としては、「倫理学」というものに対する理解が深まったと思います。世の中で使われている「哲学」という言葉がいかにあまいなものであるのかということも感じました。（私が哲学だと捉えていたものは、倫理学であるということが分かりました。ありがとうございました。）

A.4,5 哲学と倫理学の関係については、アリストテレス以来の伝統的な見方（広義の哲学の中に、狭義の哲学と、倫理学などがある）と、レヴィナスの例で見たように、伝統的な見方に反対する立場があつて（反対の仕方にも、レヴィナス以外にもいろいろある）、それぞれの立場によって、哲学と倫理学の位置づけが違うというのが現状です。

Q.6 倫理学と西洋哲学のちがいが分かりました。できれば、広島大学の西洋哲学コース<sup>1</sup>（ママ、分野）と倫理学コース（ママ、分野）の必要条件講義を具体的に教えて頂きたかったです。

A.6 入学時に配布された便覧の履修基準を見て下さい。ただ、シラバスを見ただけでは、それぞれの授業で、どういうテキストを何語で読んでいるのかがわからなくなっているので、今、調査中で、私からも報告しますが、いずれ、2～4年生にこの授業にゲストとして来てもらって、話してもらおう予定ですので、そのときにみなさんから質問もしてもらおうようにします。

Q.7 前回の授業を受けていたときは、どうしてそこまで語源にこだわろうとするのかが分からなかったけど、今回の授業を受けていると、物事をより深く理解するには、語源にこだわることも大切なんだな、と思いました。

A.7 表現の手段としては、ことばが中心ですから、書き手がどういう意味を込めてその言葉や表現を使ったのかを考える必要があるのですが、それをせずに理解したつもりになっていることが多いので、自分でも反省します。

Q.8 theōriā の訳として観想をつけた人はすごいと思った。私は、語源で英単語を覚えていたので、語源にもとづいた訳はかっこよさを感じます。

A.8 theōriā の訳語としては、美学の用語としては「観照」が使われ、哲学（西洋古代哲学史）では、「観照」と「観想」が使われています。「観照」も「観想」も仏教の用語としては存在していたのですが、それを誰が転用したのか、私にはわかりません。ただ、明治7（1874）年刊行の『百一新論』の中で、西周は、自分の言葉としては、「理論」とか「理論上」という表現を使いながらも、最後の部分で、「ヒロソヒー (philosophy), 訳して哲学と名づけ」というすぐ前のところで、「教にはもとより観・行の二門を分かつて論ぜねばならぬ」と言っていて、「教」が学問全体を指すとすると、「観」が「観想（理論、テオーリアー）」で、「行」が「行為（実践、プラークシス）」に相当すると思われま。

Q.9 語源に関する話は特にとても興味深く感じました。哲学の面白さを知って、スペイン語を学んでいることに後悔していませんが、少なくともドイツ語を学んでいないことは残念に思いました。

<sup>1</sup>なお、言葉使いの問題ですが、学部生の場合、例えば、文学部／人文学科／哲学・思想文化学コース／西洋哲学分野 というのが正式の言い方で、西洋哲学コースとか、西洋哲学専攻というのはありませんから、注意して下さい。いずれにせよ、入学時に配布された便覧をよく読んで下さい。なお、大学院には、専攻という表現があります。

A. 9 ドイツ語も、フランス語も、ギリシア語もラテン語もこれから学べば大丈夫です。問題ありません。

Q. 10 高校では「倫理・政経」という科目になっていました。なぜこの2つが一緒にされているのか未だに分かりません。

5 A. 10 たしかに、そうですね。それに、今はどうなっているのか確かめていませんが、センター試験（その前は、共通一次試験）が導入される前の入試科目としては、東大の二次試験では、「政経」でしたが、京大は、「倫理・政経」となっていて、なんでやねん、と思ったことがあります。（日本史と世界史を選んだので関係ありませんでしたが）

10 Q. 11 倫理学と哲学の差がまだはっきりわかりませんが、このあと、自分でも一応理解に努めるつもりなのですが、もし何かわかえあないところがあれば、先生に聞いてもよろしいでしょうか。

A. 11 どうぞ、質問して下さい。

Q. 12 哲学では、倫理学のように「現代の問題に〇〇の考えでアプローチする」みたいな研究はないのか？

15 A. 12 やってもよいですが、過去の「西洋哲学」分野の卒論、「哲学」分野の修論・博論のタイトルをみると、そういうのが表立ってないのはなぜだか考えてみて下さい。学問としての「哲学」分野と「倫理学」分野の違いがそこにあると思います。パースが次のように言っています。

..... I regard any practical applications of it(=philosophy) to Religion and Conduct as exceedingly dangerous. [Ch. S. Peirce, 1992, *Reasoning and the Logic of Things*, Harvard U.P., p. 8.]

20 ・・・・わたしは哲学を宗教や行動へと実際に応用することは危険極まりないと考えてるのである。（パース、「哲学と実生活の営み」、『連続性の哲学』所収、伊藤邦武訳、岩波文庫、p. 14.）

20 世紀後半からの、「応用～」「実践～」ブームも、ニーチェの予言の通りですね。

Nachweis der barbarisirenden Wirkungen der Wissenschaften. Sie verlieren sich leicht in den Dienst der „ praktischen Interessen “. [Nietzsche, *Philosophenbuch*, MA, 6, S. 8.]

25 学問の野蛮化する効果を指示すること。学問は「実践的関心」への奉仕のうちに、容易に、自己を失って行くものである。（渡辺二郎訳、『ニーチェ全集3、哲学者の書』ちくま学芸文庫、p. 235.）

数学者ジャン・デュドネの、「基礎（純粋）」と「応用」に関する数学についての言及は、哲学にもあてはまると思います。

30 「ポアンカレ以後40年間、フランスには真の応用数学は存在していなかったと言える。良くできる学生には『純粋数学をやりたまえ』と勧める一方、普通のできの学生にはむしろ応用数学の方が良いだろうと助言するのだったが。その裏には『この学生のできるのは高々そんなものだろう』という考えがかくされていた」・・・「しかし本当はその反対が正しいのだ。良い純粋数学ができて初めて良い応用数学をやれるようになるのだ」(M. マレシャル、『ブルバキ 数学者達の秘密結社』、高橋礼司訳、2012、丸善出版、p. 189.)

Q. 13 「道徳哲学」ということを聞いたことがあるけれども、その「道徳哲学」と倫理学は同じことですか？

40 A. 13 この質問は、質問者が書いたのち、二十線で取り消した質問ですが、特に、18世紀のイギリスとドイツの場合について、西洋近世哲学史に関する重要な点に触れる質問なので、質問を復活させて少し取り上げたいと思います。

この問題もことばについてみる必要があります。

Q. 14 (配布資料 C\_4「鼎談, 哲学と哲学史研究」について)『哲学を学ぶ人のために』(藤澤令夫編)を読んで詳しく知りたい単語・用語を調べましたが... Prescribed books, great books とかは, 最近のことでしょうか. よくわかりませんでした.

A. 14 prescribed books というのは, そういう本があるわけではなくて, その名の通り, ある授業では, これこれの本を読み, と処方された(指定された)本のリストが示されて, それを読んで授業に出席するという制度です, 今も行なわれていますし, great books というのは, 読め, と指定される本のうち, 大きな本の部分ではなくて, 全体をまるごと読ませるための本で, 原典が英語でない場合は, 全体を英語に訳したものを指します. 英語圏(主に, 英国と北米)では, 英語以外で書かれた古典的著作の英語訳が多くあるので, 英語しか解さない学部生に対して, 授業でも, そういうものを読むようにと, prescribed books として指定することができたわけです. 時期によるでしょうが, 日本では事情が異なるので, 同じようにはできない可能性があります. この鼎談が行なわれた時期と比べると, 抄訳も含めると, 日本語で読めるものが増えてきているので, great books として使えるものには限界がありますが, prescribed books として指定できる著作は増えてきていると思います.

Q. 14' 「西洋哲学入門」関係資料の「各広義・共通」の C\_0 から C\_5 を読むと, 前回・今回で先生が言われようとされていることが理解できるように思います.

A. 14' ご助言ありがとうございます. C\_0 から C\_5 を読むとわかる, ということですので, 授業でも少しずつ, 読んでいくことにしましょうか. 順に, C\_0 に続いて, 以下の2つ.

C\_1 ショーペンハウアー「哲学史について」「大学の哲学について」より

C\_2 ヤスパーズ「哲学・哲学史について」(『哲学入門』より)

Q. 15 ... 哲学を自らすることだけに傾倒する, 過去の哲学者から学ぶことだけに傾倒するというのではなく, 両方が同時に必要だと僕も思いました. (過去の哲学者から学ぶことで, 自分が見識? を広げたり, 考えを深められると思うので, 自分はまず過去の人々から学ぶべきなのかなあとは思いますが)

A. 15 自分が問題とすることがらを自分の頭で考えることに専心する(これが, 哲学すること)のと, 現在も含めて過去の自分以外の人たち(主に哲学者と言われる人たち)が考えて書き残したテキストを読んで理解すること(これが, 西洋哲学史の研究)の両方が必要だろうということですね. 前者がないと, 哲学になりませんが, 前者だけでは, 哲学史に照らして, (本人にとっては意味があっても)学問的にはすでに考えられていることであつたり, 学問的水準に達していなかつたりするので, 大学での学問としての哲学のやり方としてはまずいと思います. これまでの哲学の歴史において, 自分が考えていることにどういう意味があるのかという位置づけができないからです.

例えば, ある問題について, 過去の哲学者がどう考えてきたかを調べてみたところ, 自分が考えているようなことはすでに考えられていて, 自分の考えよりももっと優れた考え方があったことがわかつたりしますし, 新しいほうが優れているとも限りません. 古いほうが優れていたりします. 私の専門で言えば, 古代のプラトンやアリストテレス, 中世のトマス(・アキナス)やオッカムなどは, 現在の自然科学の見地からは, 事実的に間違っている事柄を主張していても, 考え方や発想法という点で, 未だに学ぶべきところが多く, その意味で現役の哲学者であると言えると思います.

→ 「哲学」と「西洋哲学史」について, 読んでほしい書物の紹介

・トゥーゲントハット/ヴォルフ, 2016, 『論理哲学入門』, 鈴木/石川(訳), (ちくま学芸文庫), 筑摩書房. [Tugendhat, E., und U. Wolf, 1983, *Logisch-semantische Propädeutik*, Stuttgart: Reclam.]

・吉田夏彦, 2017, 『論理と哲学の世界』, (ちくま学芸文庫), 筑摩書房. (初版は, 1977, 新潮社)

・今道友信, 1987, 『西洋哲学史』, (講談社学術文庫 787), 講談社.

## 西洋哲学入門 第 5, 6 回 (2019.10.23.)

Q. 1 哲学に対して「お金にならない」「社会の役に立たない」といった批判が存在し、また、それらへの反論も何通りか存在すると思われまふ。先生ご自身は哲学の存在意義についてどのように考えていますか。(何でもすぐに利益や目的につなげることは無粋かもしれませんが...)

5 Q. 1' 西洋哲学は日常生活で何か役割をえているか。

Q. 1'' 哲学者たちの哲学、倫理学に対する考え (Q. 12, 前回の p. 5) を読むのはとても感慨深いものがありました。

Q. 1''' 「～は役に立つから学ぶ」(現実の問題への解決のアプローチの 1 つとして) というだけでは、特に哲学分野を学んでいく者の姿勢としては、少し足りない部分があるのだと感じました。

10 A. 1, 1', 1'', 1''' 「哲学は何の役に立つのか」あるいは「哲学の存在意義は何か」という問いに対して、私自身がどう考えるか、と問われているのですが、私自身は何かの役に立つと思ってやっていないので、その問いに対する、積極的な答は持ち合わせていません。では、なぜ、哲学をしているのか? と問われれば、自分が疑問に思うこと考え、追求していたら、大学の学問分野の分類では哲学だった、つまり、気がついたら哲学をやっていた、としか言えません。

15 しかし、これでは、授業の担当者としては無責任ですから、積極的な答を考えてみると、既存の考え方やものの見方をもう一度、これでよいのか、なぜそうなのか、と考え直してみることによって、今、自分が、あるいは、私たちがおかれている状況や位置を明らかにすること、そして、可能ならば、これまでになかったよりよい考え方に至ること、ということでしょうか。

20 しかし、このことが、もしできたとしても、ソクラテスの例にあるように、同時代の社会からは、受け入れられず、逆に抹殺されてしまうかもしれないのが、本物の哲学ではないか、と思っています。

Q. 2 3タームの末にテストはありますか? あるのであれば、どのようなテストなのか教えてください (内容、形式等)。

25 A. 2 テーマを決めて、文献を読み、それにもとづいてレポートを書いて提出してもらいます。いわゆる、筆記試験は行ないません。

Q. 3 「語源を重視するのは重要だが、こだわりすぎてもいけない」というニュアンスのことをおっしゃいましたが、訳をして一般的に知られた意味では訳せないときに語源を調べるべきですか、また、語源を効率良く調べられる方法を教えてください。

30 A. 3 今使っている辞書に加えて、語源が記載されている辞書も使うことと、原語辞典も使うことです。原語辞典というのは、ドイツ語ならば、独独辞典のことです。その独独辞典に語源も記載されていれば、なお、便利ですね。私は、ドイツ語文献の研究が専門ではありませんが、独独辞典は、Wahrig の小辞典と大辞典、Duden の 6 巻本 (研究室には、10 巻本)、それに、Grimm の 33 巻本を引きます。最後の Grimm は、Web 上でも引けますし、CD でも引けるのですが、やはり、紙の辞書を開いてじっくり読むほうがよいので、研究室にも、自宅にもあります。

35 独和辞典ならば、『木村相良独和辞典』(博友社) は、まだ、古本市場にあると思います。入手は困難かもしれませんが、片山正雄『独和大辞典』(南江堂) は、よくできています (ただし、Fraktur ひげ文字ですが)。

40 Q. 4 原本を読むことで哲学者の思想をそのまま理解することに近づく、という考えは理解できるのですが、先人たちが翻訳したのものも、原本ではないにしろ、理解するにあたって有効ではないのでしょうか。ドイツ語などは学習する期間があまりにも短いために理解が薄くなる懸念があるように感じます。

A. 4 翻訳をどう扱うかについては、すでに、資料として示している、ショーペンハウアー (C\_1) やヤスパース (C\_2) の言うことを知った上で自分で判断する必要があります。ニーチェは、もっとひどいことを言っていましたね。

Es gibt ehrlich gemeinte Übersetzungen, die beinahe Fälschungen sind, als unfreiwillige Verge-  
meinerungen des Originals. [Nietzsche, *Jenseits von Gut und Böse*, 28, KSA5, S. 46 (Kröner, Bd.  
7(KTA76), S. 38)]

忠実にくわだてられた翻訳だというのに、知らぬまに原文の格調を汚してしまったものとし  
て、ほとんど偽作だといっていいようなものもある。(ニーチェ／信太正三訳『善悪の彼岸』  
より)

こうなると、「先人たちが翻訳したものも・・・理解するにあたって有効」どころか、有害、と  
いうことでしょう。

しかし、翻訳がない文献を扱う学生もいることがあるので、翻訳を利用する、という方法はい  
つも使えるとはかぎりません。

また、たしかに、私が学部生の頃は、1,2年生のうちに、第1外国語も、第2外国語も、それぞ  
れ最低8単位(8コマ)以上履修することが義務づけられていた上に、学部3,4年では、週に2コ  
マ以上のドイツ語文献を読む演習・講読に出席していたので、授業で読まされる量が相当多かつ  
たと思います(しかも、これはドイツ語の話で、これ以外にフランス語、英語、ギリシア語、ラテ  
ン語の演習にも出ていました)。その上、授業以外に、読書会と称して、授業では扱われない文献  
を、学部生や院生が集まって勉強会もしていました。

今は、授業で学ぶ時間数が少ないのならば、時間があるのですから、授業以外で、自主的に外  
国語文献を読めばいいじゃないですか...

Q.5 現在ドイツ語を第二外国語として選択しているが、それに甘えず自主的にもっとドイツ  
語を学ぼうと思った。

A.5 それは、甘えた考え方だと思います。ドイツ語以外も学びなさい。ドイツ語以外も学ん  
でこそ、ドイツ語も読めるようになるのです。もし、ドイツ語を学ぶのが、ドイツ語で書かれた  
哲学の文献を読むためならば、大抵のドイツ語の文献はドイツ語と英語しか知らなければ、表面  
的な意味しか分かりませんよ。

例えば、ニーチェならば、中高ドイツ語、ギリシア語、ラテン語、フランス語、それにイタリア  
語の文法くらいは知っておかないと... それに、(楽譜が読めるという意味で)ピアノを弾けるほ  
うがよいですが... つまり、ドイツ語で書いた著者が何語を知って、何をやっていたかは、知っ  
ておいたほうがよいということです。

Q.6 「超・・・」はどういうことか。

A.6 おそらく、「チョガンブロ」のことだと思います。これは、1995年前後の京都市内の女子  
高生の間では使われていた言い方で、「超顔面不細工ロング」(チョウ・ガンメン・ブサイク・ロン  
グ)の略で、ロングは、ロングな毛、つまり、長い髪の毛(ロング・ヘアー)の略だと思います。

[2コマ目、卒論の中間発表会の感想等]

Q.7 卒業論文のテーマはどのように決めていくのですか？

A.7 はじめから決まっている学生も、全然決まっていない学生もいます。決まっていない場  
合は、2年で、西洋古代哲学史、西洋中世哲学史、西洋近世哲学史、哲学概論などを受講して、ど  
ういう哲学の問題があるのか、そして、どういう哲学者や著作があるのかを学んで、3年のうち  
に、テーマが決まればよいのですが、4年にずれ込む場合もあります。実際にどうしているかは、  
3,4年生にゲストで来てもらったときに、質問して下さい。

Q.8 知らない哲学者ばかりであった。

Q.8' 実際に、卒論の中間発表を聞いて、まだまだ分からないことだらけだという痛感した。

A.8,8' 今、わからないことがあっても、それはある意味では、当然ですから、これから学べ  
ばよろしい。



Q. 9 着目されたものは、だいたい中世哲学の頃の哲学者ではないのか、それはなぜですか？

Q. 9' 古代の哲学を自らの研究テーマとする人が多いのでしょうか？自分は（ニーチェ）、フッサール、ハイデggerあたりに興味があるので、もしその時代のこと深くできないのであれば少し不安です。

5 A. 9, 9' 近現代の哲学をテーマにしている学生たちはいるのですが、諸般の事情から、今回の発表会には参加しなかった（できなかった）ようです。少なくとも、今のところ、E. フロムやK. ヤスパースをテーマにしている学生たちがいますし、他にもいます。

以前、配布した、卒論の題目一覧をみればわかるように、学士論文（卒論）としては、古代から現代まで、どういうテーマでも卒論を書くことができますので、その点は安心して自分がやり  
10 たいことをやって下さい。

Q. 10 "アリストテレスの『カテゴリー論』における表現方法について"は、ギリシア語の派生的語尾変化に着目されたのは面白いと感じましたが、このような言語学的内容も西洋哲学の論文題目として"有り"ですか？

15 Q. 10' 言語や社会、行動に関わる発表もありましたが、言語学や社会学、行動学、心理学といったものとはどのように線引きをして哲学分野としているのでしょうか。

A. 10, 10' いい質問です。

アリストテレスとレヴィナスを対比して、アリストテレスの学問（=広い意味の哲学、広義の哲学）の分類を示しましたが、その中には、その時代のすべての学問が含まれていました。アリストテレス自身も論理学や形而上学、倫理学や政治学だけでなく、自然学（自然に関する学）を研究  
20 しており、魂（psūchē, プシユ<sup>^</sup>ケー）論（心理学の元祖）や、天文学をやっており、特に動物学を得意としていました。それを哲学者としてやっていたわけです。現代の哲学の専門家に同じことをやれ、と言われても、専門家のレヴェルでは無理でしょうが、哲学としては、他の学問分野に関心をもって、自分に理解できる限りで理解しようとすることは必要です。

そこで、卒論のテーマですが、学生本人の興味関心を優先すると、現代の哲学や西洋哲学史研究固有のテーマとは違って、言語学や社会学の文献に興味を惹かれてそれをテーマとする学生も  
25 いるのですが、アリストテレス以来の、広い意味での哲学として、そのテーマを認めています。しかし、大学院に行ってもさらに研究を続けようとする、そのテーマでは、哲学としてはまずいので、それぞれにふさわしい分野の大学院に行ってもらうことになります。

つまり、卒論では、先生の専門に関係なく、学生が自分の関心でかなり自由にテーマを決めて  
30 卒論を書いてもらっている、ということです。

Q. 11 （今回の発表会に限らず哲学全般について質問です。）科学分野についてだと理論に対し、根拠、実験データが必要となりますが、哲学については（愛徳など実証が難しいテーマが多いということもあり）理性的な論理展開によって体系を構築しているという印象があります。もしこの認識が間違いでないならば、なぜ証拠のない妄言とならず「哲学」として成立し得るの  
35 でしょうか。

A. 11 これもよい質問です。

質問者のいう科学分野の科学は、いわゆる自然科学が念頭におかれていると思いますが、この質問には2つの答をする必要があります。

1つは、(西洋)哲学史の研究という観点からすれば、例として挙げられている、「愛徳」にせ  
40 よ、他の哲学上の概念、たとえば、「理性」「知性」「感性」や「直観（直感ではありません）」なども、人間を解剖すれば、そういう臓器があるわけでもなく、数値で表現するには、IQとか、人為的に加工した観点からしか観測できませんし、そういう数値化があまり意味をなす議論でもありません。そこで、(西洋)哲学史の研究が目指しているのは、もし、13世紀のトマス・アクィナスが主張する「愛徳」というものがあるとすれば、それによって、人間の活動や、当時の人々が信  
45 仰する神との関係はどうなっているのか、あるいは、彼らによってどう捉えられていたのか、を

現代の我々にとって理解できる仕方で明らかにする、という作業なのです。そして、その研究によって、「愛徳」がある、と主張しているわけではありません。(もっとも、こういうテーマで卒論を書く学生は、「愛徳」というものがある、か、あればよいのに、と思っているかもしれませんが、研究するにあたっては、あくまでも、「愛徳」は前提されているだけです)

5 つまり、(西洋)哲学史の研究は、当該の哲学者が主張していることを、仮に前提として認めれば、さらにどういうことが言えるのか、明らかになるのか、という推論や議論の論理的整合性を追求している、ということになります。「もし～ならば、～ということになる」という推論の形式は、仮言推論と言われますが、哲学史の研究にかぎらず、ほとんど全ての学問は、究極的には、この仮言推論になっているはずで

10 そして、もう1つは、また、この「愛徳」の例で言えば、上記の哲学史の研究成果を踏まえて、「愛徳」が存在するのか、あるとすれば、それはどういうものなのかを明らかにしようとする研究で、どちらかと言えば、自分の頭で考える「哲学」の部分が大きい作業です。もし、哲学史の研究成果が、「もし、愛徳があるならば、現実に観察できる人間のこれこれの行動や出来事が説明できる」等々であれば、逆に、「現実に観察できる人間のこれこれの行動や出来事」からさかのぼって、それらの行動や出来事の原因として、何が想定できるか、それは「愛徳」と呼ぶのがふさわしいものなのか、それとも別の名称で呼ぶべき、別のものなのかを追求することになりますが、それ自体はやはり、「愛徳」そのものを観測できないのと同様、直接、見ることができないものを想定する作業です。場合によっては、そういうものは存在しない、という結論になるかもしれません。(この作業・考察・考究は、論理的整合性が投げ所です)

20 質問者が言っていた、(自然)科学についても、例えば、19世紀末に、原子論の仮説をめぐる、エネルギーとアトミスティックの論争があります。これは、実証とか検証とは何か、という問題にかかわります。

当時、原子の存在は、肉眼で直接確かめられることはなく(現在でも、原子顕微鏡の助けを借りなければならぬ、という意味では、間接的にしか見ることはできないと言えます)、直接その存在が確かめられない原子の存在を前提しない(仮説として採用しない)現象論者(または、エネルギー論者:エネルギー)と、原子の存在を認める原子論者(アトミスティック)の間で論争が行なわれました。現象論者(エネルギー)には、オストヴァルト(F. W. Ostwald)がおり、原子論者(アトミスティック)には、ボルツマン(L. Boltzmann)がいました。原子や分子などの(当時)観察不可能なものを物理学に取り入れることに反対の立場をとった、マッハやヘルム(G. Helm)は、原子論者(アトミスティック)に反対しましたが、その後、20世紀になり、ペラン(J. Perin)の実験によって、ボルツマンの気体の分子運動の理論と予測に合致することが確かめられ、また、マッハ自身もウランが放射するα線を観測して、原子の存在を認めることになって、原子論者(アトミスティック)の主張が認められることになりました。

35 とは言え、原子論者(アトミスティック)の主張が認められるに至った、いくつかの実験や観測も、直接、原子や分子を観測したわけではなくて、原子や分子があるとすれば、説明できる(あるいは説明しやすい)その痕跡を観測したわけで、その意味では、やはり、間接的な観測です。その間接性の程度がどれほどであるか、という程度の違いが、哲学と物理学の違いであって、それは、原因と結果の間に、どれほどの隔たりがあるかの違いであって、どこまでの程度の差を、実証や検証という操作に認めるかの違いであるとも言えます。

40 →「哲学」と「西洋哲学史」について、読んでほしい書物の紹介

・大森荘蔵, 2015, 『思考と論理』, (ちくま学芸文庫), 筑摩書房。(初版は, 1986, 放送大学)

・リーゼンフーバー, K., 2017, 『西洋古代・中世哲学史』, (ちくま学芸文庫), 筑摩書房。(初版は, 1991, 放送大学)

45 ・伊藤邦武, 2012, 『物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために』, (中公新書), 中央公論新社。

## 西洋哲学入門 第 7, 8 回 (2019.10.30.)

Q. 1 (専門は哲学ではありませんが) 哲学を学びたいのは文学理論を容易に理解できるようになるためです。

A. 1 そのために、「西洋哲学入門」を受講するという選択は、大変よいことだと思います。しかし、この授業では、直接、文学理論に言及することはありませんので、日本語の本であれば、次の本をよむことを勧めます。

・筒井康隆, 1990, 『文学部唯野教授』, 岩波書店。

・イーグルトン, T., 2014, 『文学とは何か 現代批評理論への招待 (上) (下)』, 大橋洋一郎 (訳), (岩波文庫), 岩波書店。

10 筒井康隆の小説では、登場人物の唯野教授が、文学理論を語ってくれる上に、小説なのに注がついていて、哲学者の名前もでてきます。また、イーグルトンの本の原題は、*Literary Theory*, 2008, で、文字通り『文学理論』の本なので、現象学、解釈学、受容理論、構造主義、記号論、ポスト構造主義、精神分析批評などが扱われています。哲学者だけでも、アルチュセール、ヴィトゲンシュタイン、ガダマー、カント、クローチェ、サルトル、シュライエルマッハー、デイルタイ、デカルト、デリダ、ニーチェ、ハイデガー、パース、ハーバーマス、フーコー、フッサール、ブラッドレー、プラトン、ヘーゲル、ベーコン、ローティなどの名前が見られます。

Q. 2 フランス語は発音の規則が難しいかと思いますが、フランス語を学ぶ際、しっかりと発音まで出来た方が良いでしょうか。それとも、文法面のみ理解していればセーフでしょうか？

A. 2 発音できなければアウトです。今は、入門書や辞書にも CD がついているし、ラジオやテレビでも学べますから、発音を学んで下さい。文法も発音とともに学ばなければ学習効率がわるいと思います。

Q. 3 ... ドイツ語を学ぶ (独学する) のに良い参考書があれば教えて頂きたいです。

A. 3 教養のドイツ語の授業に出るか、2年になってから、文学部の「倫理学基礎演習」というセメスター科目 (半年) がドイツ語入門になっているはずなので、それに出るのがよいと思います。半年で文法の初歩を学んだら、もう少し詳しい文法書と辞書をたよりに、ドイツ語文献を読む授業や読書会に出て、読むトレーニングをすることです。前回、辞書を紹介しましたが、別の辞書と文法書 (中級以上) を以下に紹介します。

・富山芳正 (編集者代表), 1990, 『独和辞典』, 郁文堂。 (その後、改訂版が出ている)

・桜井和市, 1968, 『改訂 ドイツ広文典』, 第三書房。

30 どうしても、独学するというのであれば、私は昔の本しか知りませんので、目次や索引がついていて、未来受動分詞の説明まである本を選んでください。

Q. 3' ... それにしても、ドイツ語とか勉強する必要があるのか、聞きたいです。

A. 3' 学生諸君にとっては、卒業のための単位をとるために、何語の文献を読む演習 (授業) があるか、という学問的ではなくて、実際的な問題があります。複数の教員がいる大学では、教員数にもよりますが、理想的には、古代・中世 (ギリシア語, ラテン語), 英米系, ドイツ系, フランス系とそろえています。しかし、複数の教員が在職しているのに、ほぼ全員がドイツ系、という大学もあります。そこでは、ドイツ系以外の哲学を学ぶチャンスが、学生諸君から奪われている、とも言えます<sup>2</sup>。

<sup>2</sup>—昨年に担当した「西洋哲学入門」では、2年生以上の、それも史学系の受講者が多かったこともあり、学生諸君で分担して、哲学の専門課程を有する、他の大学について、何を専門とする教員がいるのか、どういう授業をしているのか、また、学生の卒論のテーマはどのようなものか、などについて、調べて、報告する、という授業を行ないました。中には、イギリスの大学 (オックスフォード) や中国の大学についての報告もあり、広島大学の状況が、どういうものかがわかったようです。

日本での西洋の哲学は、ドイツ系の研究をする人が多かったために、いまだに、それを引きずっているだけで、学問的な判断からそうになっているわけではありません。

田中先生の次の言葉の意味を考えてみて下さい。

ところで、わが国の哲学の状況も、ドイツ哲学の出店のようなものなのですから、[田中美知太郎「哲学とその根本問題」『哲学入門』、p. 151]

現代ドイツ哲学といふやうなものを全世界のやうに考へてゐる人たちにとっては、それら皮相の名前が見失はれてしまふとき、あとに何がのこるのだらうか。[田中美知太郎『時代と私』、p. 51]

Q. 4 ショーペンハウアーやヤスパースの、原典を読むべきだとか複数の書物を読むべきであるという主張には納得できるが、ヤスパースの「選択」についての言及がよく理解できなかった。魅惑されて引きずりこまれたとしても、最終的には選択したことになるおではないか？ と思った。

A. 4 ヤスパースがいう「選択」と、質問者がいう「選択」は意味が違うということなのでしょう。ヤスパースがいう「選択」は、魅力的なもの、そうでもないもの、むしろ反発を感じるものなど、複数の候補があつて、それらの中から、自分の判断で（理性的に）選ぶことを「選択」と言っているのでしょう。これは、冷静にさめた選択です。或る意味で自分を冷静に見ていると言えます。選ぶ主体は自分で、主導権は自分にあり、能動的な選択です。ただし、この選択をする人を、第三者が外から見ると、どういう経緯や理由、判断で選んだのかはわかりませんから、ただ、それを選んだと見えるだけです。

これに対して、魅惑的なものに、引きずり込まれて、選んだ場合は、自分の判断で（理性的に）選んだわけではなくて、自分が、能動的に判断して（理性的に）選んだわけではなくて、逆に、その魅惑的なものに主導権があり、自分はむしろ、受動的に選ばされたにすぎません。しかし、これも、このような受動的な選び方をさせられる人を、第三者が外から見ると、ただ、それを選んだと見えるだけです。

質問者は、この外からの見え方も「選択」と言っていますが、ヤスパースは、能動的な選び方だけを本当の意味での「選択」と言っているのでしょうか。

Q. 5 ヤスパースがあるひとつの解釈をそのまま信用するのではなく、原典や他の翻訳を読むようにと言っていますが、先生自身は研究の際、何種類くらいの解釈を読んでいますか？

A. 5 以前に紹介したと思うのですが、NK コメント 2 で言及した、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』の一節の解釈について、日本語訳 3 種類、ラテン語訳 2 種類、英語訳 2 種類、フランス語訳 2 種類、イタリア語訳 2 種類、ドイツ語訳 3 種類の合計 14 種類を参照していますが、さらに、「ただし、これらは、たまたま、手許にあつたものだけであつて、網羅的なものではなく、普段、自分が研究のために、『ニコマコス倫理学』を読むときには、これらに加えて、少なくとも、複数のラテン訳や、アスパシオスによるギリシア語の註解、トマスの註解（ラテン語）などを参照するはずである。」ということです。

Q. 6 心理学と哲学が密接に関連するテーマはあるのでしょうか。

A. 6 質問者のいう「心理学 (psychology)」が何を指すか次第です。ギリシア以来の「魂（プシューケー, psūchē）論」は、広い意味での哲学の中に含まれる、哲学の一分野です（例えば、アリストテレスの『デ・アニマ（魂論）』）。これは、今の言い方で言えば、生命論、認識論などがその内容です。そして、おそらく、質問者のいう「心理学」は、これではなくて、19 世紀以降のいわゆる経験（実験）科学的心理学だろうと思います。これは 20 世紀になると、さらに、全体性を重視するゲシュタルト心理学、無意識を重視する精神分析学、さらに客観性を標榜する行動主義心理学が現れ、20 世紀後半には、認知過程を重視する認知心理学が登場しました。

ラカンやメルロー＝ポンティなどは、これらの心理学と関連する発言をしていると思いますから、彼らの著作を読んでみて下さい。一方、哲学の側からは、（心理学ではなくて）心理主義が問

題にされて、心理主義批判の立場が主張されました。しかし、クワイン（文献紹介を参照）のホーリズムによって、両者の対立を解消する「自然化された認識論」が提唱されていますが、批判もあって問題が解決しているわけではないと思います。この辺りのことを話し出すと、20世紀の哲学史を語り出すことになります。

- 5 Q.7 音楽にはあまり詳しくありませんが、ニーチェの曲調はニーチェの思想に通ずるものがあるのでしょうか。

A.7 ピアノ曲が多く、譜面を見ると、やたらと音を重ねて、和音を重たくする傾向があるのですが、だからといって演奏効果があるわけでもなく、ワーグナーが素人扱いしたのもっともです。しかし、サロンのBGMとしては、使える小品があるので、ニーチェの作曲と哲学の関係の研究がなされてもよいかもしれません。（そういう本格的な研究があるのかどうか知りませんが）

- 10 Q.8 今回の内容になった、哲学史の研究にかぎらず、ほとんど全ての学問は、究極的には仮言推論の形をとっているということですが、哲学史の研究では、実証や検証がきわめて難しいことから「もし～ならば～ということになる」の「もし」の部分がなかなかとりはたえず、自然科学などの学問では、間接的であっても、実証や検証が可能であるため、この「もし～ならば」の
- 15 部分が、ある程度薄くなっているということでしょうか。

A.8 哲学史の研究としては、研究対象は、哲学史上の文献ですから、例えば、「もしトマスの主張が正しいとすれば、～ということになる」の「トマスの主張が正しい」を前提として、トマスの書いた文献の内容の整合性を追求するところまでで、哲学史としての仕事は一応終了しますから、自然科学がやるような実証や検証は必要ありません（文献内での実証や検証はあると思いますが）。しかし、哲学としては、研究対象は、問題（ことがら）そのものですから、哲学史の研究が明らかにした、そのトマスの主張内容が、妥当なものであるかどうかを、今度は、自分の力で追求する仕事をやらなければなりません。そうすると、自然科学が対象を扱うのと同じように、その思想内容そのものを対象として、実証なり検証なりをすることになります。その実証や検証は、第三者からみると、自然科学のそれ以上に、さらに間接的に思われる場合が多いので、なかなか賛同する人を得られないことになります。

20

25

- Q.9 自分はハイデggerの「存在と時間」（ママ、『存在と時間』）を読む時、とても難しいと感じました。読むしかないと思うのはいるが、何か方法がありますか？ ネットで、まず、カントをちゃんと理解するというアドバイスがあるけれど（も）、カントの本も読みにくいですから...

A.9 M. Heidegger の *Sein und Zeit* (1927) は、ドイツ語自体はそう難しくないと思いますが、ギリシア語やラテン語が頻繁にでてきて、ドイツ語の専門用語も使い方が、独自（または、自分勝手）ですから、ハイデggerが引用・言及する、デカルト、トマス・アクィナス、プラトンなどの著作も見る必要があるでしょう。日本語訳は、すでに3～4種類（もっとあるかもしれない）あると思いますが、『存在と時間』ではなくて、辻村公一（訳）『有と時』は、旧版（世界の大思想版）と新版（ハイデgger全集）の二つのうち、少なくともどちらかは見るとよいでしょう。また、『哲学事典』（平凡社）や『哲学・思想事典』（岩波書店）などで、わからない用語を確認しながら読むことが必要かもしれません。ドイツ語以外のヨーロッパ語を読めるなら、英語訳やフランス語訳を参照しながら読むのもよいと思います。

30

35

- Q.10 自分の立場とは異なる立場をとる人物の（著）作も読むべきであるという発想はなかったため、大変興味深く思いました。また、ドイツを理解するために他の言語の知識をもつべきであるということは、私もこの頃感じ始めていたことだったので、余計なことではないとわかり安心しました。
- 40

A.10 ヤスパースは、哲学史上の、哲学者たちの中で、自分の立場とは異なる立場をとる哲学者の著作も読むべきであると言っているわけですが、実際に、卒論やレポートで、ある哲学者の著作のある箇所を解釈を取り上げる場合、その箇所について、Aという研究者の解釈・読み方と、

45 Bという研究者の解釈・読み方が違っている、ということがありえるので、AとBのどちらが正しいのか、あるいはどちらも正しくなく、自分が正しい解釈・読み方を、根拠とともに提示する、

という作業をすることになります。ですから、自分の考え方とは異なる考え方というものは、自分の考え方をきたえるためにも必要なものなのです。

Q. 11 試験はせず、テーマを決めて文献を読み、レポートを書くとのことでしたが、題材は自分で選ぶのですか？ それとも決められたテーマの中でやるのですか？

- 5 A. 11 テーマを自分で設定する、ということも課題にしようと思います。「レポート課題の指示」を見て下さい。

---

#### 受講生からの質問集

Q. 12 哲学を大学の専攻にした学生たちは、卒業後、どのような仕事に就くことができるか。

- 10 Q. 13 また、単純な興味ですが、卒業論文等は別とし、哲学の道を進んでいる人が論文を書くことにどういった意義があるのかが知りたいと思いました。

Q. 14 私は大学院に進学したいと今、考えています。大学院進学のスケジュール、1年、2年の間にやっておくべきことなど、院受験に関するアドバイスがあれば是非教えて頂きたいです。

- 
- 15 → 「レポートや論文の書き方、研究の仕方」について、読んでほしい書物の紹介  
 ・東郷雄二、2009、『[新版] 文科系必修研究生活術』、(ちくま学芸文庫)、筑摩書房。(初版は、2000, 夏目書房)

→ 「レポートの書き方」については、赤井の授業用の Web サイトにある、下記の pdf を必ず参照すること。

- 20 [https://home.hiroshima-u-ac.jp/akyah59/2017\\_an\\_med\\_sc\\_phil.rep.shtml](https://home.hiroshima-u-ac.jp/akyah59/2017_an_med_sc_phil.rep.shtml)

または、

[https://home.hiroshima-u-ac.jp/akyah59/2019\\_an\\_med\\_sc\\_phil.rep.shtml](https://home.hiroshima-u-ac.jp/akyah59/2019_an_med_sc_phil.rep.shtml)

C\_9 「引用の作法について」(高橋祥吾氏作成) (pdf)

→ 「哲学」と「西洋哲学史」について、読んでほしい書物の紹介

- 25 ・Quine, W. van O., 1953(1961, 1980), 'Two dogmas of empiricism,' in *From a Logical Point of View*, Cambridge, MA: Harvard Univ. Press., pp. 20–46.

・クワイン, W. v. O., 1972, 「経験主義の2つのドグマ」, 『論理的観点から』所収, 中山活二郎・持丸悦朗 (訳), 岩波書店, pp. 35–64.

- 30 ・クワイン, W. V. O., 1992, 「経験主義のふたつのドグマ」, 『論理的観点から』所収, 飯田隆 (訳), 勁草書房, pp. 31–70.

## 西洋哲学入門 第 9, 10 回 (2019.11.06.)

Q. 1 『文学部唯野教授』の他に (文学理論に限らず) 哲学に関係する, または哲学をテーマとしている小説で読むと良いものはありますか.

他の哲学の講義と, この授業の内容が同じ学問とは思えないほど異なっているのは何故ですか.

5 A. 1 読むとよいかどうかわかりませんが, 次のようなものがあります.

・原田まりる, 2016, 『ニーチェが京都にやってきて 17 歳の私に哲学のことを教えてくれた。』, ダイヤモンド社.

ニーチェの他に, キルケゴール (キェルケゴール), サルトル, ショーペンハウアー, ハイデガー (ハイデッガー), ヤスパースが, 現代の京都在住の日本人の姿をかりて登場し, アリサ (=17 歳の私) に哲学を語ってくれます.

また, この授業は, 他の授業とは, どのように異なっているのか, 教えてください.

Q. 2 ニーチェのピアノ曲, とても聴いてみたいと思いました. なぜニーチェが音楽を始めたのか, すごく疑問に感じました.

15 A. 2 ニーチェが初めて作曲を試みたのは, 1854 年, 10 歳のときで, 12 歳のときに書いた文章 (自伝) の中に, 音楽についてのまとまった記述があり,

Gott hat uns die Musik gegeben, damit wir erstens, durch sie nach oben geleitet werden.[Nietzsche, 1966, *Werke in drei Bänden*, III, S. 34, Schlechta, München: Hanser. ]

20 神が人間に音楽を与えたもうたのは, まず第一に, 音楽によって人間を高い所へ導くためである... (ニーチェ/川原栄峰 (訳), 「音楽について」より, 1994, 『この人を見よ, 自伝集』, ニーチェ全集 15. ちくま学芸文庫, p. 234.)

Eine andre recht traurige Erscheinung ist, daß viele neuere Komponisten sich bemühen, dunkel zu schreiben. Aber gerade solche künstliche Perioden, die vielleicht den Kenner entzücken, lassen das gesunde Menschenohr kalt. Vorzüglich diese sogenannte Zukunftsmusik eines Liszt, Berlioz, sucht etwas darin, so eigentümliche Stellen wie nur möglich zu zeigen. [a. o. O.]

25 さらにもう一つのはなはだ悲しむべき現象は, 近年多くの作曲家たちがわざとあいまいな曲を書こうと努めているということである. このような芸術的時期はおそらく通人を魅了するではあろうが健全な人間の耳を凍らせてしまう. 特にリストとかベルリオーズとかいったいわゆる未来音楽はできるかぎり奇妙な楽節を世に示すことによって何かを求めている. (前掲書, pp. 235-6.)

30 などと, 書いています. 牧師の家に生まれたので, 教会音楽には幼い頃から親しんでいたでしょうし, 自分でもピアノを弾き, 音楽会・演奏会にもしばしば足を運んでいたようです.

Q. 3 以前, フーコーの『言葉と物』の日本語版を読み, 挫折しました. 哲学 (史) について学んで行く際に何回でもまず原典に取りかかるべきか, 哲学者についての入門書を読むべきか, それとも他の選択肢があるのか, よりよい順序があれば (なくても) 助言いただきたいです.

35 A. 3 挫折の内容がどういうものかによりますが, 一度読んですぐに理解できなくても, あきらめるには及びません. 入門書や解説書があるならば, それを利用すべきです. それに, 読んでわかったと思っても, 実は誤解している自分に気づいていないだけでわかってつもりになっていることもありえます.

40 そもそも, 翻訳が一つもない原典に取り組んでいるときには, 原典を読むしかありませんが, 例に挙げられているフーコーの著作ならば, 原典のフランス語の他に, 英訳や日本語訳やその他の

近代語訳があるでしょうから、それを図書館で探してきて、わからない箇所を照合して読み比べてみることです。

また、著者は、あらかじめ読者が知っていることを前提している事柄があるので、それを知らなければ何を言っているかわからない、ということがありますから、フーコーについての入門書  
5 や解説書があればそれらを総動員して調べるべきでしょう。哲学で使われる専門用語については、『哲学事典』や『哲学・思想事典』の類も利用するべきです。

Q.4 「処世」は「世間と交わって生きていくこと」、元々何らかの世界が各人の周りに広がっており、その中で各人がその世界と関係していくこと。

「世界内存在」は「各人が何らかの世界の中で生きていくしかないこと」、「元々存在する外部的  
10 な世界」というのは想定していない、という点で違いがあるのかなと勝手ながら思っています...  
先生のご意見をうかがいたいです。

ですが、考え方は違っても、「in der Welt sein」(ママ, „in der Welt sein“) (『Das Buch vom Tee』  
(ママ, *Das Buch vom Tee*)) とほぼ同じ形で、「das In-der-Welt-Sein」(ママ, „das In-der-Welt-Sein“) と記述してしまっ  
15 たのは、ハイデガーの若干のミスかなと思います。誤解を生まない為にも、ハイデガーに気をつけて欲しかったです。

A.4 「処世」は、「世における (いる, ある, sein)」という意味と、「世に処する (walten)」という  
意味の両方をもっていて、おそらく、『莊子』でも『淮南子』でも、「世」については、元々あ  
るとも、各人にとって、その都度、それぞれ違ったものとして生じるものとも限定していないと  
20 思います。それに対して、「世界内存在」の「世界」は、各人にとってそれぞれ、その都度、生  
じる (ある) ものが言われているというのが、ハイデッガーの実存の説明・解説として通用してい  
る解釈で正しいと思います。

ですが、独訳の *Das Buch vom Tee* の „in der Welt sein“ を、ハイデッガーが „Das In-der-Welt-Sein“  
として使っているのは、意味が違っていると弁解しても、表現自体は明らかに剽窃 (Plagiat) です。*Sein  
und Zeit* の中では、デカルトやアリストテレスや他の著作からの引用には注がつけられているの  
25 に、『茶の本』については何も言っていない、ということには、もっと深い問題が背後にあると思  
います。

最近はずでに過去のこととして、いまさら問題にされることはないかもしれませんが、アレン  
トとのことは別にしても、ナチスとの関係について、次のようにみる研究者もいることを、ハイ  
デッガーを学ぶ人は知っておくべきです。

30 ハイデガーの哲学がいかにか深遠玄妙に思われようと、欺かれてはならない。その哲学生活を  
見るなら、彼の哲学は人類の理性に加えられた拭い難い汚辱である。(藤野渉, 1979, 『哲学  
とモラル』, 汐文社, p. 11.)

Q.4' ハイデッガーの「世界内存在」についてくわしくは知らないが、「世界内存在」が、すで  
に別の人が出していた語の影響を受けているのに、そのことを明記していなくて、批判されても、  
35 でも、しっかり、ハイデッガーの思想として認められているが、それは良いの? と思った。

教師になったとき、生徒には、岡倉天心のところから、伝えようと思った。

A.4' 「それは良いの?」って、よくはないのですが、そうとは知らないハイデッガー信奉者  
によって、ハイデッガーの「世界内存在」として知られていることは、すでに歴史的事実ですか  
ら、それはそれとして認めざるをえません。

40 生徒には、正確に伝えてあげてください。

Q.4'' ハイデッガーが伊藤吉之助から贈られた、岡倉天心のドイツ語訳本から無断引用したと  
いう話に驚きました。ハイデッガーの人間性というよりは、受けた教育の問題もありかなと思  
います。



A. 4” 剽窃は剽窃としてはっきり批判するべきで、ハイデッガーに好意的な人が多すぎると思っています。In-der-Welt-Sein の件は、別にして、ハイデッガーの思想には意味のあることがらがあるので、それらまで全部否定しようというのでありませんから、ハイデッガーから学べることは学ばせてもらい、やっではだめなことは、だめ、と、はっきり言える人になってほしいものです。

5 ところで、A. 4 で、「もっと深い問題が背後にある」と書きましたが、ハイデッガーは、西洋哲学史に登場するような著作、例えば、デカルトやアリストテレスの著作から引用するときには、注をつけているのに、天心の『茶の本』には注をつけなかったのはなぜか、それは、*Sein und Zeit* の読者は、デカルトやアリストテレスの著作は読んでいだろうが、天心の『茶の本』を読んではいないだろうから、注をつけなければ、まさか、天心の『茶の本』から引いてきたとは誰も気づかないだろうと思ったのでしょうか。ハイフンをつけて名詞化しているし、意味も自分の独自の意味で使っているし、バレないだろうと思ったのでしょうか。東洋人のもの（もとは中国、書いたのは日本人）に対する、この態度がハイデッガーだけでなく、当時のドイツ人、あるいはヨーロッパ人の態度・姿勢の現れかもしれないという気がします。（ついでにいうと、これは全ての人がそうである、という意味ではないですし、また、当時だけのことではなくて、今でも言えることです。）

15 Q. 5 今まで大学でいくつか哲学の講義をうけてきて、どの先生もプラトンの“プ”にアクセントを置かないなあと思っていただけ、その理由が知れてよかった。

A. 5 それは、幸運でしたね。私の周囲には、結構、“プ”にアクセントを置く輩がいるので、ギリシア語を知らないでよく哲学をやっているられるなあ、あきれて、いや、感心しています。日本語として、どう発音するかによって、その人の教養というか、学識がないことがばれます。本人は気づいていないので、あわれ、というか、滑稽（こっけい）です。

20 Q. 6 ドイツ語、フランス語、ラテン語、ギリシア語（他にもあると思いますが）で比較的修得しやすい言語はあるのでしょうか。

A. 6 修得ということは何を考えているか次第ですが、修得ということを考えなくてよろしい。哲学史の研究のために、発音できて、辞書と文法書をたよりに、読めるようになればよいので（もちろん、むつかしくて、すぐには読めないものもあります）、どんな言葉かのぞいてみるつもりで、初歩の授業を受けるなり、入門書を見るなりしてください。

例に挙げられた四カ国語の中では、ギリシア語だけ、文字と記号を覚えて発音できるようになるのに、他の3つより少し手間がかかるかもしれません。動詞の活用は、四カ国語とも、似たり寄ったりですが、名詞・形容詞の曲用は、フランス語以外は、しっかりあります。

30 しかし、哲学史の研究という観点からすると、「修得しやすい言語」という発想はないはず。というのも、外国語は、あくまでも、文献を読むための手段・道具ですから、自分にとって必要な道具を手に入れてください。たとえば、デカルトに興味をもったら、デカルトは、ラテン語とフランス語で書いていますから、修得しやすいかどうかに関係なく、ラテン語とフランス語を学ぶのが当たり前です。カントなら、ラテン語とドイツ語です。そして、例えば、ヘーゲルは、著作としては、ラテン語（一編のみ）とドイツ語ですが、本人が読んでいた文献は、英語、ドイツ語、フランス語、ギリシア語、ラテン語なので、ヘーゲルを理解しようとすれば、ドイツ語、ギリシア語、ラテン語、フランス語、英語を知らなければなりません。そして、研究を始めると、それらに加えて、これら以外のことばで書かれた研究文献があるので、それを読む必要がでてきます。

40 Q. 7 今の哲学界で、分析哲学 (Analytic Philosophy) が主流になりました。リングウイステクス (linguistics) に似ていると感じます。ちょっとつまらないと思います。自分が知っている哲学と全然違うような感じがします。

A. 7 言いたいことはわかる気がします。確かに、分析哲学では、言語分析をしているだけで、これのどこが哲学なのか、という感じがするわけですね。しかし、自分が考える哲学の傾向と異なると思うのであれば、むしろ、勉強してみる価値があるとも言えます。

45 Q. 8 哲学に入門したいと（思いますが）、どうしたらいいのか、ちょっと教えていただければ

うれしいです！

A. 8 自分が興味・関心をもっている問題があれば、それに関することを扱っている哲学から学び始めるのがよいのですが、そうではなくて、哲学史上、どういう問題が扱われてきたのか、どういう哲学者がこれまでいたのか、ということを知りたいのならば、例えば、フランスのリセの哲学学級・最終学年の授業を受けるのがよいでしょう。そういう講義の内容を知ることができる日本語訳の本がいくつかあります。

・ヴェーユ、シモーヌ、1996、『ヴェーユの哲学講義』、渡辺一民／川村孝則（訳）、ちくま学芸文庫。

・ドゥルーズ、ジル、2018、『基礎づけるとは何か』、國分巧一郎／長門裕介／西川耕平（編訳）、ちくま学芸文庫。

後者はわかりにくいことを売りにしているところがあるので、前者を勧めます。そして、同時に、『哲学事典』や『哲学辞典』で、ことばの意味を確かめることを是非実行してください。『事典』や『辞典』は、ことばを調べるために引くだけでなく、『辞典』そのものを読むものでもあります。（ヴォルテールの『哲学辞典』など）

大きな事典（平凡社の『哲学事典』や岩波の『哲学・思想事典』）は、図書館でみることにして、個人で購入するには、岩波の『哲学小辞典』が勧められるかもしれませんが、（自分が学生するときには使っていませんでしたが）教員になってから、なるほど、これはよいと思って自分用にそろえているのは、以下の事典、いや、辞典です。

・思想の科学研究会（編）、2012、『新版 哲学・論理用語辞典 新装板』、三一書房。

・思想の科学研究会（編）、1993、『増補改訂 哲学・論理用語辞典』、三一書房。

・思想の科学研究会（編）、1959、『哲学・論理用語辞典』、三一書房。

新しく登場した用語は、新しい版を見なければなりません。基本的な事柄の記述は、古いほうが優れています。例えば、「権威 (authority)」の項は、「権威」を、(1)「理性的権威」と(2)「非理性的権威」の2つに分類し、(1)は、医者のことばの科学的合理性と妥当性を納得して承認することによる、とし、(2)は、おえら方の発言を無条件にペコンと最敬礼して従うものといっています。(1)は、理性的な手続きでその内容をテストできるが、(2)はテストできないのが特徴であると指摘しています。この『辞典』では、もっと具体例をあげてわかりやすく説明しています。

『哲学・論理用語辞典』の初版は、思想の科学研究会の大淵和夫（1927-1977）が、項目の原稿ができると、それを高校生に読んでもらって、わからないところを高校生にもわかるまで書き直すという作業を経て書かれているので、わかりやすさが違います。（当時、大淵和夫は、大阪府立淀川高校（定時制）の教諭で、後に、九州芸術工業大学助教授在職中に亡くなりました）

Q. 9 作品（映画や小説など）で、その物語のメッセージや元になっている考えがどんなものかというのを考えるのが好きなのだが、こういう考察を論文などの学術的なものに仕上げることはできるか。

A. 9 できると思います。詩についてですが、田辺元のマラルメ論とか、映画や映像なら、ロラン・バルトの『映像の修辞学』とか...

Q. 10 先輩方の実際の経験に基づくお話が聞けてとてもためになったと同時に、正直自分にそんなことが出来るのか自身がなくなり、ますます専攻選びを迷いそうだと思った。

A. 10 ゲストに来てくれた3、4年生はえらそうなことを言っていました。大したことはありませんから、心配はありません。やってみればなんとかなります。

Q. 11 文学部なので朝一限が苦手です。どうしても一限目だけ寝てしまうのですがどうすればいいでしょう。

ドイツ語以外の言語について、基礎的なところを2年までに学ぶべきでしょうか。

A. 11 朝、寝ているというのは、デカルトの真似ですか（体質的に朝起きられなかったデカルトに似ていてカッコイイという意味です）。中世の大学は、夜明けとともに始まっていたから、21世紀の学生でよかったですね。ハイデッガーの時代（20世紀前半）でも、朝7時台から授業を  
5 していたようです。しかし、「文学部なので」と「朝一限が苦手です」のつながりに説得力がありません。省略されて、書かれていない理由が他にあるのでしょうか。どうすればよいかと言われても、「早く寝ろ！」としか言えません。

ドイツ語以外の言語については、自分でこれが必要かな、と思うものに手をつけてみてはどう  
10 でしょう。生協の北1の書籍のコーナーに、白水社の『エクスプレス～語』のシリーズが置いてあったのではないかと思うので、それを手に取ってどんなことばかのぞいてみるのがよいかと思います。

Q. 12 最終レポート課題での引用のミス等は再提出になるのでしょうか。それとも多すぎると一発で不可になるのでしょうか。

A. 12 最終レポートは、原則として再提出しなくてよろしい。が、どうしても見てチェックし  
15 てほしい場合は提出すれば、チェックします。一度、予備レポートでチェックを受けていれば、一発で不可になるということはまずないと思います。

---

→ 「哲学」と「西洋哲学史」、および「哲学史」について、読んでほしい書物の紹介

- ・ Priest, G., 2000, *Logic, A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford Univ. Press.
- 20 ・ フォルシェー, ドミニク, 2011, 『西洋哲学史—パルメニデスからレヴィナスまで』, 川口茂雄/長谷川琢哉 (訳), (文庫クセジュ), 白水社.
- ・ 野田又夫, 2013, 『哲学の三つの伝統 他十二篇』, (岩波文庫), 岩波書店.
- ・ 加治伸行, 2013, 『中国人の論理学』, (ちくま学芸文庫), 筑摩書房.
- ・ ゴンダ, J., 1990, 『インド思想史』, 鎧淳 (訳), (中公文庫), 中央公論社.
- 25 ・ ゴンダ, J., 2002, 『インド思想史』, 鎧淳 (訳), (岩波文庫), 岩波書店.
- ・ 井筒俊彦, 1991, 『イスラーム思想史』, (中公文庫), 中央公論社.

## 西洋哲学入門 第 11, 12 回 (2019.11.13.)

Q.1 レポートの書き方はわかったが、ワードのつかい方があやしいと思う。

「〜<sup>3</sup>」などの番号をつけるやり方がわからなかったため、いつも Web からコピペしている。

A.1 う〜ん、それは不便ですから、どこかで、自分に必要な操作を知って使えるようになるべきですね。「情報活用演習」の授業<sup>4</sup>とかで、教えてもらう機会があるのではないですか... 知っている人に目の前でやってもらうのが手っ取り早いですが。

レポートで、出典箇所を記すだけの注ならば、番号は付けずに、引用文の直後に、そのまま、(森有正, p. 136) のように本文中に書けばよいと思います。

大学の事務や学生諸君から受け取る書類は、Word なので、それを見ているが (pdf なら問題ない)、私は Word で作れと指定されていなければ、自分で作る書類は、 $\text{\TeX}$  で書いていますので、便利ですよ。この際、 $\text{\TeX}$  (テフ) を導入したらどうでしょうか。 $\text{\TeX}$  で書くと、出力は pdf なので、誰にでも読んでもらえますし、 $\text{\TeX}$  は、どんな OS でも動きますから (UNIX 由来なので)、因(ちなみ)に、この Q. & A. も、以前は、Mac の Nisus Writer で書いていましたが、今は、 $\text{\TeX}$  で書いています。

Q.2 大学に入ってレポートなどにとりくむまで、詳細な註釈に注視しておらず、内容さえ正しければ形式にこだわらなくても良いのではないかと考えていました。しかし、実際に文章を書いたり読んだりする中で決まったルールは必要であると感じました。

Q.2' レポートの書き方に自信がなかったので、詳しく書き方を教えて下さり、とても助かります。ありがとうございます。まだまだ慣れないですが、少しずつ習得していきたいと思います。

Q.2'' レポートの書き方、特に引用についてとても勉強になった。

Q.2''' レポートの正しい書き方について今日の授業でかなり知れたかな、と思います。ありがとうございます。

Q.2'''' 今までレポートというレポートを書いたことがないので、とても不安です。書く内容より格式(ママ、書式)に気を使わなければいけない、新しい知識を行動に出すのはとても疲れるし、どこかしら確実に失敗している箇所がでてくると思うので課題が怖いです。

A. 2, 2', 2'', 2''' 注(註とも書く)には、引用した文献の典拠を示すだけのものと、内容についての記述を含む比較的長い注もあります。今、レポートに必要なものは、前者、すなわち、引用した文献の典拠を示す注ですから、Q.1 に対して書いたように、本文中に ( ) で示してもよいと思います。

そして、そもそも、出典箇所を示す注をつけるのは、書き手としては、他人の言っていることと、自分の考えを明確に区別して論述するためですし、読み手にとっては、注の付けられた箇所について、読み手自身が、原典を参照して、書き手の引用している通りであることを確認するためです。これは、いわば、検証実験をするようなもので、書き手の引用が正確であれば、そのレポートや論文全体の記述の信頼度が増すのです。

授業のレポートは、4年になって卒論を書くための、いわば、練習ですから、そして、学生のうちは、間違った書き方を直してもらうのが、授業の役割ですから、心配せずに、どんどん間違っ、て、しっかり直してもらえばよいのです。

Q.2'''''' 偉い先生方も論文の書き方を、意図的にはないとしても軽視してしまうのは何故でしょうか。「内容がよければ・・・」ということですか？ このままだと正しい形式が残っていないのでは・・・と思いました。

<sup>3</sup>これは、番号が1だけではなくて、1)とか(1)とかにする場合もあります。

<sup>4</sup>以前は、半年間、週に1コマ、「情報活用演習」という授業を文学部の授業として開講していて、その中で、ワープロの使い方とかネチケツの話、Webサイトの作り方などを、何人ものTAもつけて行っていたのですが、今は、「教養ゼミ」の中の何回分かの授業でしか扱わないようになってしまっているのでしょうか。これは、文学部が授業担当者の人件費を削減した結果で、文学部の責任と言わざるをえませんね。

A. 2'''' 新書の場合は、学術文献（論文や研究書）と違って、読者として、著者と同じレベルの研究能力をもつ人を想定していないいわゆる啓蒙書なので、専門家が研究するのに必要な出典の詳しい注がつけられていないのです。そのことを知った上で、新書や入門書の類を読む必要があります。

5 Q. 2'''' 講義には関係ないけれど（も）、この前広島市内に行った際に kiosk という名前の売店を見つけて少しうれしくなりました。

また、今まで他の講義でレポートをかいてきたが、文献を記入するように指示されたことがほとんどなかったのはなぜだろうと思った。

10 A. 2'''' トルコ語から入ったフランス語の kiosque が、kiosk（駅などにある売店）ですね、本当に、講義に関係ないですね。

これまで書いてきたレポートは、他人の書いた文献を参照しないで、すべて自分のオリジナルで書くものだったのでしょうか。本当に、何故でしょうね。

Q. 3 まだ何も決めていませんが最終課題のテーマを決めるのに苦労しています。何かアドバイスがあればお願いします。

15 Q. 3' 最終レポートについて、予備レポートが未完であれば、それを完成させて提出して良いとのことですが、予備レポートを完成させたつもりで提出したものの、訂正すべき箇所を教えて頂いた場合、それを再提出する形でも最終レポートとして扱っていただけるのですか。それとも、新しく自分で考えたものを再提出するものの両方を出す必要がありますか。

出版年は初版と使用した版のどちらを書くべきですか。

20 A. 3, 3' 例えば、初版が、1901年、第5版が、1921年ならば、1901(1921<sup>5</sup>)と書く方法があります。また、内容が変わってなくて、印刷年だけが違うのならば、1901(1921)と書いてもよいでしょう。

さて、予備レポートと最終レポートのことですが、原則として、それぞれ1回の合計2回提出すればよろしい（もちろん、どうしても添削してほしいので、それ以上提出してもかまいませんが）。  
25 図示すれば、次のようになるでしょう。最終レポートの添削・返却を希望する人はその旨、最終レポートに書いてくれれば、返却します。

A さんの場合

予備レポート（未完成）を提出 → 添削されて返却 → 最終レポートとして予備レポート（完成版）を提出 以上で終了。

30 B 君の場合

予備レポート（未完成）を提出 → 添削されて返却 → 自分のテーマで最終レポート（完成版）を提出 以上で終了。

C さんの場合

35 予備レポート（完成版）を提出 → 添削されて返却 → 自分のテーマで最終レポート（完成版）を提出 以上で終了。

また、自分でテーマを決める最終レポートのテーマについては、いろいろな方法があると思いますが、その中に、次のような方法があります。

40 授業で紹介している資料のどれでも、また、自分で読んでいる文献（本）でも、何かわからないことに出会ったら、それは、どういう意味であるか、どういうことであるかを調べたり考えたりして、明確な答が出ればそれでもよいし、答に行き着かなくても、調べて考えた過程を文字化することによってレポートを書くことができます。これは、何に疑問をもって、何をわからないと思うか次第です。

Q. 3'' 私は何彼につけ深く考えてしまう癖があるし、哲学方面の話を聞いているとワクワクするので、哲学が好きだと思っていたし、今でも話を聞くのは楽しいのですが、この先、ある程度

掘り下げて論文を書かなければならないと考えると憂鬱になってしまいます（論文やレポートを書くのが苦手なのもありますが）。向いていないのでしょうか…

A. 3” Q. 3 に対して書いたように、話を聞く、あるいは、本を読むというのは、他の人の考えを理解する作業ですが、その中で、すぐには自分には理解できないことに出くわした場合、それを他の文献によって理解したり、調べたり、自分で考えたりして理解する努力をする、という作業が続きます。たとえ、十分な理解に至らなかったとしても、その過程を記述することがレポートや論文につながります。自分で調べたり考えたりしてみると、聞いていた話や読んでいた文献の言っている内容が間違っているのではないかと、という疑問が生じることもあります。実際、間違っている場合もありますが、多くの場合は、自分の理解が不十分で間違っていたりします。

いずれにせよ、聞いたり読んだりした他人による情報を、ふむふむ、なるほど、と納得してしまうのではなく、なんでそうなるの？ と疑問をもって、その問題を自分でも考え、追求してみることを勧めます。なにかにつけ、深く考える癖があるのなら、むしろ、向いているのではないですか。

P. S. なお、外国語が原典の本を読む場合、翻訳も存在するならば、原典も翻訳もどちらも読めばよい（いや、読むべき）で、何語のものを読むかは、そのときの自分の読解力次第でよいのではないのでしょうか。

Q. 4 前々回の卒論中間報告に出た方々は、先生の講義及び、「レポート作成の書き方」や「引用の作法について」を学んでいなかったのでしょうか。

A. 4 約一名は、ほぼ完璧な書式で書いていたと思いますが（その学生は、Word は使わずに、 $\text{\TeX}$  を使っています）、その他の人は、授業には出ていたけれども、身につけていないのでしょうか。これから、修正が入れられることとなります。

Q. 5 西洋哲学史についての本に比べて、東洋哲学史をまとめた本は少ない気がします。気のせいでしょうか。

A. 5 確かに、東洋には、中国、インドと重要な思想が複数あり、中東まで含めれば、イスラームについても扱う必要があるもので、簡単に、東洋哲学史（というより、むしろ、東洋思想史）としてまとめられない、複雑な研究対象である、ということでしょう。ですから、（西洋の）哲学を学ぶ者としては、現時点では、大きく、中国、インドとイスラームに分けて学ぶ必要があると思います。

私が学部生のとき、受講した（当時の名称で）「中国哲学史概説」と「インド哲学史概説」の参考書目（準教科書）は、下記のもので、

東京大学中国哲学研究室編、1952(1982), 『中国思想史』, 東京大学出版会。

金倉円照、1962, 『インド哲学史』, 平楽寺書店。

しかし、学部1年のころから、インド哲学志望のクラスメート何人かと読み始めたのは、次の本でした。しかし、ラダークリシュナンの本は、2巻本の名著なので、始めの方と、あとは、あっちこちつまみ読みしているだけです。

Radhakrishnan, S., 1923, 1927, *Indian Philosophy*, 2 vols., London. . . . 738 + 807 pp. ある。

Zimmer, H., 1951, *Philosophies of India*, New York. (stw<sup>5</sup>に、独訳あり)

他に、次の二書も気になって読み比べていました。

武内義雄、1936(1957 改版), 『中国思想史』, (岩波全書), 岩波書店。

中村元、1968, 『インド思想史 第2版』, (岩波全書), 岩波書店。

ところが、その後さらに、次の本も気になって、ときどき、繙（ひもと）いています。

Chatterjee, S. C. and D. M. Datta, 1939, *An Introduction to Indian Philosophy*, Calcutta. . . . こ

<sup>5</sup>= Suhrkamp Taschenbuch Wissenschaft のシリーズ。

れは、印哲の某先生のお気に入りとして教えてもらった本で、Introduction といいながら、496 pp. ある。

狩野直喜, 1953(1969), 『中國哲學史』, 岩波書店. . . . 講義の筆記ノートによって弟子たちがまとめたもの. 日本語がむつかしい.

- 5 小島祐馬, 2017, 『中国思想史』, KK ベストセラーズ. . . . 初版は 1968 年, 創文社刊. 講義の筆記ノートによって弟子たちがまとめたものだが, 内容のレベルを落さず, わかりやすい日本語で記述されていて優れた本です.

Q. 6 exist, being, existing being の区別がちよっとわからない. 中国で, "是"(である)"存在"両(ふた)つの訳文があります.

- 10 A. 6 文法的に品詞の区別をすると, 動詞としては, exist (存在する, 現存する, 実存在する), be (〜がある (=存在する), 〜である) で, being は, 動詞 be の現在分詞 (存在する〜, 〜である〜) または動名詞 (存在, 存在するもの) ですが, 動名詞の本来の意味は, 動詞を名詞化するので
- 15 すがから, 「〜する/あること/もの」というのが基本的な意味です. 従って, being は, 「存在すること, 存在するもの」というのが, 本来の意味です. しかし, 動名詞としての being は, 名詞としても使われて定着しているので, being = existence (存在) という用法もあります. 名詞 being の意味は, 文脈によって, 他に「人生 (life), 生き物, 本質, 存在」, 大文字で Being 「神」なども意味します.

- 20 そうすると, existing being は, 現在分詞+名詞と考えられるので, 「現に存在する存在」という意味になるかと思えます. この being の意味は, 「存在」以外に, 「人生 (life), 生き物, 本質」などの可能性があります.

Q. 7 「天地不仁以万物為芻狗」という句が荘子の一言であるが, つまり, この世に存るものが一切的に平等だという意味で, 差がないとすると, 私たちは今やっていることとか, 考えていることとか, 全部虚無ではないだろうか? では, いったい何のために私たちは生きているのか? 従来の哲学者の中に, よい答を出す人がいるかどうか教えていただければうれしいです.

- 25 A. 7 語句をよく記憶していてすばらしいと思います. 中国思想史では, しばしば「老荘」思想として, 『老子』と『荘子』を一括して扱うことがありますが, この語句は, 『老子』上篇第五章です. (私の家はネットにつながっていないので, 日曜日に『荘子』内篇, 外編, 雑篇の全部に目を通してみましたが, この語句が見つからず, ひょっとして (vielleicht), 『老子』かもしれないと, 『老子』を冒頭からみていくと, すぐに見つかりました)

- 30 天地不仁、以万物為芻狗。聖人不仁、以百姓為芻狗 . . . (以下略)

天地は仁あらず。万物を以て芻狗となす。聖人は仁あらず。百姓を以て芻狗となす . . .

天と地には仁はない。(それらにあつては) 万物は、わらでつくった狗 (いぬ) のようなものだ。聖人にも仁はない。(かれにとつて) 人民どもは、わらでつくった狗 (いぬ) のようなものだ . . . (小川環樹訳)

- 35 小川環樹先生の解釈では, この箇所は, 『老子』は, 儒家 (孔子・孟子) の「仁」を, 天地にも聖人にもなく, 天地が非情であるように, 聖人は非情であつてこそ万民の統治ができる, と言いきり, 儒家の「仁」だけでなく, 墨家の「兼愛」説も否定し, さらに, 単なる愚民政策である, 法家の人民軽視の政策論をも否定して, 「不仁」が, すなわち「無為」につながる, 政府は, 人民に対し無関心であるような態度をとるべきである, という, 現代の言い方では, 政治論になっています.

- 40 西洋の言い方をすれば, 『老子』も『荘子』も個人主義的ですが, しかし, 『老子』は『荘子』と違って, この箇所のように, 政治的な場面についての言及があります.

質問は, 全部が虚無であるとするれば, 私たちは何のために生きているのか? という根本的なものです. 人はどうしたらよいのか, という問いであるよりも, 人はどういうものであるか, ということならば, 『老子』の中でも, 「無為」との関係で語られている箇所があります.

ここでいわれる『老子』の「無為」は「自然」に通じるようですが、「自然」は、ウェイリの解釈では、what-is-so-of-itself（それ自身によってそうになっていること／もの）であり、『老子』上篇第 25 章の末尾で、

・・・人法地、地法天、天法道、道法自然。

5 ・・・人は地に法（のつと）り、地は天に法り、天は道に法り、道は自然に法る。

・・・人は地を規範とし、地は天を規範とし、天は道を規範とし、道は自然を規範とする。（小川環樹訳）

とされています。上述の意味での「自然」を規範とする「道」にのつとって、人は「無為」であること、つまり、よけいなことをしないこと、を老子は教えているように思います。

10 西洋の哲学者の場合、『老子』のような世界観をもった上で、人はどうするべきかを考えた人として、ぴったり符合するような人を思いつきませんが、似ているところがあるかもしれないと思うのは、「隠れて生きよ」という、エピクロス (Epicurus, 341–270 B. C.), また、この世界を虚無と捉えた末に、あれこれ発言しているのは、ニーチェ (Nietzsche, 1844–1900) でしょうか。他にもあると思います。しかし、どちらも、西洋哲学史の中で、最初に学ぶ哲学者としては、本道とい

15 か中心からそれた裏街道の流れに属するという印象を受けます。

Q. 8 哲学を学びたいというと「それが何の役に立つのか」「哲学を大学で学ぶ意味がない」などと言われることがしばしばあります。私は役に立つ、立たないで価値を決めようとして、そのようなことを言う人たちがおそろしいと思います。先生は上記のような質問についてどう思われますか。

20 A. 8 そもそも、何かの役に立つかどうかは、問題ではない、と突っぱねてしまうこともできますが、それでは、わざわざ国の予算を組んで何をやっているのか、と怒られそうですから、本意ではありませんが、何かの役に立つ、という趣旨で答えることにすると、役に立つ、ということは、少なくとも、二通りの役に立ち方が考えられます。

ひとつは、自然科学に基づく技術のように、目に見えてすぐに役に立つ場合です。もうひとつは、すぐに目に見えて役立つことを見ることのできないけれども、諸々の学問の考え方の枠組み (Th. クーンのパラダイムみたいに) を変更させたりすることです。これは、第一の場合のように、ある理論が技術的に実用化されて製品や薬が開発されて、誰の目にも明らかにすぐに効果がある、とか、もう少し、時間がかかる例としては、法律や制度が改められて、その恩恵を受ける人がでてくる、とかいう場合よりも、もっと時間がかかる、つまり、はやくて 100 年とか、あるいはもっと

30 とかかるかもしれないものです。

今からほぼ、2400 年前のアリストテレスの時代には、ピロソピアー (哲学) の名の下に、論理学 (さらに、数論、幾何学も)、形而上学 (存在論、認識論など)、自然学 (自然全体についての研究)、動物誌、天体論、魂論 (プシューケー論)、倫理学、政治学、(芸術) 創作論などが含まれて、それぞれを専門とする人たちもいましたが、哲学者は、これら全てを学び研究していました (プラ

35 トンやアリストテレスがそうです)。その後、それぞれの分野で、より専門化が進んで、動物学の専門家、天体学の専門家等々に分かれていき、それぞれの学問分野が独立し成立していったので、もとの哲学には、それも、狭い意味での哲学には、論理的考察と形而上学 (存在論、認識論) くらいしか残っていない感じですが、しかし、人間の知的営みとしての学問の全分野の関係を考えるという、少なくともアリストテレス以来の仕事が残っています。こういう考察の成果は、ある

40 学説として公にされたら、すぐに受け入れられて広まるというものではなくて、それが世界中に広まるころには、最初にその説を唱えた人はもう亡くなってずいぶん時間が経過している、というようなことになります。例えば、デカルトが有名な『方法序説』を公にした 1637 年ころには、ヨーロッパでは、300 年以上前の 13 世紀のトマス・アクィナスの哲学が、学問の世界では一般に受け入れられていて、同じ 1637 年には、聖トマのヨハネニスという人の『哲学教程』(これは、



トマス・アクィナスの哲学) が出版されて受け入れられています。デカルトの考えは、ごく一部の  
の人に受け入れられて、その後、17 世の間を通じて、徐々に広まっていったのです。

5 こういうことが可能になるためには、少数でも、いつの時代にも、一定の水準を保って、本来  
の哲学をやり続けた人たちがいたからだと思います。しかし、そうすると、お前がやらなくても、  
5 できるやつにやらせておけばいい、と言われてしまうかもしれません。

また、狭い意味での哲学ではなくて、倫理学を専門にしているならば、すでに紹介したような、  
アリストテレスの学問分類によれば、ものごとの価値判断を考える学問なので、実際の生活上の  
問題についても、判断をする際の何らかの基準を提供することができると答えることができるで  
しょう。

10 Q.9 パストラールは広島で6 番目にできた合唱団なので、ベートーヴェンの「田園」にちな  
んだという説もあります。

A.9 なるほど、そうですね。パストラールならば、牧歌的で意味もいい感じですね。

まさか、マーラーの交響曲第6 番イ短調「悲劇的」にちなんで、トラジックとか、チャイコフ  
スキーの交響曲第6 番ロ短調作品74「悲愴」にちなんで、パセティックというわけにもいかない  
15 でしょうし。

## 西洋哲学入門 第 13, 14 回 (2019.11.20.)

Q. 1 ……(前畧)……仮に (パソコンのキーボードを) 打つことができたとしても, pdf とワード文書をそのようにしたらメールで送れるのか全く知りません。

なので今度の講義ではそのようなパソコンの基本操作 (ワード立ち上げ, pdf にする方法, メールに転送 (ママ, 添付?) する方法やページ数の打ち方など) を教えて頂きたいです。

A. 1 他にも希望者がいれば, 相談の上, 時間をつくって, やってみようと思います。

Q. 2 実際に音源を聞いて良かったです。哲学者が音楽に精通しているとは, この西洋哲学入門で初めて知ったので 1 つ新しい知識が身についた気がしました。女性ですか?

A. 2 ニーチェのことでしたら, 男です。すべての哲学者が, というわけではなくて, 音楽が苦手な哲学者もいるでしょうが, 例えば, ショーペンハウアーは, オーケストラの演奏会に行つてベートーヴェンの作品を聴いたり, 自分でもフルートを吹いていたことが知られていますし, ヴィトゲンシュタイン (兄? は, プロのピアニストでした) もクラリネットが上手かったようです。私が大学院でお世話になった先生もヴァイオリンを弾いておられました。他にもショパン (ピアノ) を弾く先生を知っています。

次の本は, フランスでもベストセラー (2014 年にはフランスで文庫化されたそうです) になっているようです。ちなみに, 全員, 男です。

Noudehmann, 2008, *Le Toucher des Philosophes Sartre, Nietzsche et Barthes au piano*, Paris : Gallimard.

ヌーデルマン, フランソワ, 2014, 『ピアノを弾く哲学者 サルトル, ニーチェ, バルト』, 橋明美 (訳), 太田出版。

Q. 3 講義で紹介されたレポートの書き方は万国共通ですか? それとも英語でレポートを書く時に変わったりしますか?

A. 3 万国共通ではありませんし, 日本国内でも, 分野によって異なります。英語圏では, 英語学英米文学では, MLA の方式が, それ以外の文科系では, Chicago Style が, 標準になっています。授業で紹介したものは, いわば, この Chicago Style の日本語版です。

英語の本, フランス語の本, ドイツ語の本, イタリア語の本などの, 文献表の位置, タイトルの書き方などを実際に, 手にとって見比べてください。違うことがわかると思います。ですから, 本や, 論文などの書式は, 学会や大学組織がそれぞれ指定する方式に従って, 執筆者が書くことを要求されるのです。

皆さんは, それぞれの分野で要求される書式に従って卒業論文を書くことになります (細かい書式を指定しない分野もあるかもしれません)。

Q. 4 ユニベルシタス叢書のカタカナを人名だと思って, 参考文献にあげた話は, 寓話のようで, 自分が参考文献をまちがえないよう心にとどめておきたいと思った。

寓話は, 失敗例とかをあげるのに有用ですね。きっと哲学でもこのような例はあるのだろうなと思いました。たとえ話など。

A. 4 universitas が, ラテン語であり, 英語の univeristy の語源だと知っていれば, 人名だと思うことはないはずです。当人はラテン語の授業も受けていたのですが身につけていなくて残念です。

最初は, おちよくつとんのかい<sup>6</sup>! こいつ! と思いました。いや, 先生のほうが試されているのではないかと。とも思い直し, 普通に, 訂正するようにと指示しておきました。

<sup>6</sup> 「おちよくつとんのかい」の音便でくれた言い方。「おちよくる」は, 「からかう」の意。

Q. 5 個人的に論理学を勉強したいと思っている。おすすめの本などあったら教えていただきたい。

A. 5 現時点で、命題論理と述語論理の自然演繹<sup>7</sup>を理解するところまで学べば、大学（文学部の哲学）で論理学をやったと言えると思います。その点でもっとも完備しているのは、

5 ・戸田山和久，2000，『論理学をつくる』，名古屋大学出版会。（433 pp.）

ですが，分厚い本なので，

・飯田賢一，中才敏郎，中谷孝雄，1994，『論理学の基礎』，（昭和堂入門選書 25），昭和堂。

くらいがよいかと思えます。

10 論理学の本は（まともな本なら）どの本でも，巻末に文献紹介がありますから，それを見て，勉強を続けて下さい。学ぶべき内容のレベルを知るには，集中講義の関口先生の「論理学」を受講すると，命題論理の自然演繹まで学ぶことができます。授業に出るほうが，独学でやるより楽です。

入門書として万人向けなのは，

・ Priest, G., 2000, *Logic A Very Short Introduction*, Oxford Univ. Press.

15 ・ Hodges, W., 2001, *Logic An Introduction to Elementary Logic*, 2nd ed., Penguin Books.

専門的には（数学が得意ならば），たぶん（Enderton は，317 ページ，Priest は，613 ページあります），次の 2 冊がよいでしょう，

・ Enderton, H. B., 2001, *A Mathematical Introduction to Logic*, 2nd ed., Harcourt/Academic Press.

・ Priest, G., 2008, *An Introduction to Non-Classical Logic*, 2nd ed., Cambridge Univ. Press.

20 なお，第 3, 4 回（2019.10.09.）の，この Q. & A. で，すでに紹介した，下記の 2 冊は，特に，吉田先生の本は，ほとんど数式なしで読めるので，全員に読んでほしい本です。

・トゥーゲントハット／ヴォルフ，2016，『論理哲学入門』，鈴木／石川（訳），（ちくま学芸文庫），筑摩書房。[Tugendhat, E., und U. Wolf, 1983, *Logisch-semantische Propädeutik*, Stuttgart: Reclam.]

・吉田夏彦，2017，『論理と哲学の世界』，（ちくま学芸文庫），筑摩書房。（初版は，1977，新潮社）

25 Q. 6 ニーチェのピアノ曲は，思っていたより明るい感じで，しつこくなく，聞きやすいメロディーだと感じました。ニーチェの曲は周りの評価が悪いと聞いていたので，あまり期待していませんでしたが，私が聞いた感じでは，そんなに悪いと思いませんでした。特に合唱曲が良かったと思いました。あれだけの曲を作るのはとても大変だったと思うので，すごいなあと思いました。

30 Q. 6' ニーチェは作曲のセンスがないと言われていたようだが，楽譜すら読めず音楽の知識がない僕にとっては，ずっと同じ調子がつづいてるなあくらいしか感じられず，上手なのか下手なのかよくわからなかった。

Q. 6'' ニーチェの音楽を聞かせていただいても，そこから何らかの情報を得ることは出来ませんでした。音楽と哲学は関係ないとは言いませんが，偉人が行っていたことを知って哲学に活かすことは大変難しいと感じました。

35 Q. 6''' ニーチェの曲は個人的には直情的に感じる部分がありました。ニーチェに対する印象がそう感じさせてしまったのかどうかは正直分かりません。

Q. 6'''' ニーチェの作った曲は初めて聴きましたが，思ったより明るい曲調で驚きました。ニーチェのイメージ的に，もっと陰鬱な短調の曲ばかりを作っていたのではないか，と思っていました。

Q. 6''''' Allegro がとても気に入った。

<sup>7</sup>具体的な内容については，赤井の授業用の Web サイトの尾道大学の「論理学」のページに，授業で扱うプリントを pdf 化してアップロードしてあるので，それを参照。論理記号については，現状では，ヒルベルト系，ラッセル系，ポーランド系と大きく 3 つの異なる流派があって，本によって使っている記号が違う場合がありますから，赤井の授業用のプリントでは，p. 24 にこれをまとめあります。

A. 6, 6', 6'', 6''', 6''''', 6'''''' 試聴した CD の演奏者は、譜面をよく研究して聴きやすい演奏をしていたので、あらかじめワーグナーやビュローというプロの音楽家からニーチェの作品が酷評されていたことを知った上で聴くと、意外とよくできている、と思えるのです。が、Q. 6' の感想にあるように、他の曲も、こういう調子で続きますから、本人が自分の楽しみで作曲し自分のために演奏するのはよいとして、プロとして人に聴かせるのはどうか、という評価なのです。ニーチェの信奉者として、ニーチェの作品の清書をしたり、行動をともしたり、後に全集の編集にたずさわった、ペーター・ガスト（ハインリッヒ・ケーゼリッツ）も音楽家でしたから、ニーチェと音楽は切り離せない関係にあると思います。著作の時期と作曲の時期を照合して何かわかるかもしれません。この点に触れている論文として、次のものがあります。

10 ・丸橋裕，2011，「ニーチェとギリシア」，神崎繁，熊野純彦，鈴木泉（責任編集），『西洋哲学史 I 「ある」の衝撃からはじまる』，所収，（講談社選書メチエ），講談社，pp. 317-347.

Q. 7 違って本当に申し訳ございません！ ご迷惑をかけてすみませんでした。「天地不仁」という文がネットで調べると実は老子の『道德経』という本に出ているとのこと。またお手数をかけてくださってありがとうございました。

15 また芻狗というものは実は草で作った狗で、もともと祭紀の用品の一つです。

A. 7 どういたしまして。おかげで、久しぶりに『莊子』に目を通し、『老子』を読むことができましたので、こちらこそ、ありがとうございました。

Q. 8 哲学に対する言語学習の重要性は深く認識しています。

20 A. 8 そのときどきに、自分にとって必要な外国語を学ぶことは必要ですが、在学中は、今は直接必要そうではなくても、学ぶ機会があれば、何語でも学んでおく、あるいは、どういうテキストや辞書があるのか知っておくようにしたほうがよいでしょう。

P. S. なお、この Q. & A. の pdf は、後から、授業用の Web サイトで読めるようにアップロードする予定ですので、最終回（第 15 回）の分は、Web 上で読んでおいてください。

URL → [https://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/lectures\\_index.shtml](https://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/lectures_index.shtml) 授業・読書会関係

## 西洋哲学入門 第 15 回 (2019.11.27.)

Q. 1 自分の考えていた授業形式とは大分進め方が違っていたので、最初はただただ驚きましたが、結果的に色々な知識を得ることが出来たので、とても良い授業を受講出来たと思っています。ありがとうございます。2年でも西洋哲学で取り組んでいく予定なので、またよろしくお

5 願いします。

A. 1 驚かせてすみませんでした。「哲学すること」は「驚くこと (=不思議に思うこと)」から始まる、とギリシア人も言っていました。

Q. 2 特に質問はないです。4タームの科学哲学・科学思想史を受ける予定なので、よろしくおねがいします。

10 A. 2 はい、よろしくおねがいします。

Q. 3 書式や表現が様々だなと思いました。それはさておき、私はドイツ語やラテン語よりも英語学習に興味があります、やはり、あまり重要視されていないのでしょうか。

A. 3 それは、ここだけの得意現象で、よその大学ではそういうことはありません。ですが、哲学をやろうとするなら、興味がないと思うことも自覚的に学ぶべきです。興味のあることは、放っ

15

Q. 4 赤井先生がすぐに話す内容を脱線してしまうのは、その分、莫大な知識と経験があるからなので、これからも脱線し続けて頂きたいです。ph, φ の話をされたときは、納得・面白さより戸惑いが勝っていましたが、それ以降は先生の知識に対する感動の方が大きかったです。

20

先生の好奇心は見習うべきだと思いました。多分というか絶対に自分と見えている世界が違っていると日に日に確信しました。でも、この講義の中で少しその異世界に触れる機会を頂けて良かったです。先生を見ていると、もっと色んなことを勉強したい、とか、学ぶことって楽しいな、とか改めて実感できます。ありがとうございました。

25

A. 4 えらくもちあげていただいて恐縮ですが、現在の世界を支配している人たちと、世界の見え方が違っているといろいろと不都合なこと、というか、私の見方が他の人には通用せず、生き辛いことがあります。ph, φ の話に、最初は戸惑いがあったというのは、広島大学が、学問的に間違っ

30

ついでに、例えば、日本語と英語とドイツ語だけを通じて見える世界よりももっと広い世界が広がっていますから、少しでも、自分が直接見える世界を広くしておいて下さい。

Q. 5 レポートの書き方を教えていただいたことがないので、とても有難く思いました。

35

A. 5 どういたしまして。しかし、他のみなさんは、いつ、どこでレポートや卒論の書き方(書式とか)を学ぶのでしょうか。ニーチェが次のように言っています。

Ich sehe durchaus nicht ab, wie Einer es wieder gut machen kann, der versäumt hat, zur rechten Zeit in eine gute Schule zu gehen. Ein solcher kennt sich nicht; er geht durchs Leben, ohne gehen gelernt zu haben; der schlaaffe Muskel verräth sich bei jedem Schritt noch. [F. Nietzsche, *Der Wille zur Macht*, Kröner, 912; Schlechta, III, S. 722; KSA 13, S. 346.]

40

私は、適当な時期にすぐれた鍛錬を怠った者が、ふたたびそのつぐないをしようとは、けっして考えない。そうした者は、おのれを知ることなく、歩行を習得しておかないままで生涯を歩みたどるのである。その弛緩した筋肉が一步をあゆむことにやはりこのことをうかがいしらせる。(原佑訳)

Q. 6 ラテン語は読めないなので何が書いてあるかは分かりませんでした。引用出典の書式は改めて参考になりました。

ぼんやりと先人の考え方を学ぶのかと最初は思っていたのですが「哲学」がそもそも何なのかといったことや学ぶ際の言語の必要性などが知れて良かったと思っています。

- 5 A. 6 ぼんやりと先人の考え方を紹介されても、ショーペンハウアー先生に怒られてしまいますしね。たとえ少しでも、原典を自分で読むことが大切です。全体を翻訳で読んでも、そのうち少しでも原典で読むようにしてください。

Q. 7 赤井先生が、日常生活の中でラテン語を使うのにハマっていたと聞いて、とても良いことだと思ったので、真似したいと思いました。

- 10 予備レポートを書きながら、課題テキストの内容が上手く読み取れなかったため、最終レポート提出までに読解したいです。

A. 7 その時々、自分にわかる範囲で読み取れることを、自分の言葉で（日本語でも、ラテン語でも、その他何語でも）表現すればよいと思います。

- 15 実はラテン語だけではなく、サンスクリットやギリシア語の訳読の問題を訳すのに、英語に訳してみたり、英語の本の一部を引用するのに、ラテン語に訳してみたり、ホーン先生やライト先生の英文の授業は、（当然）英語でノートを取り、英語でレポートを書きましたし、ショーヴァン先生の授業はフランス語で、それに、コラー先生の授業はドイツ語でノートを取りました。院生になってからは、シャフェレ先生の演習では、シラーを読みましたが、ドイツ語しか使わないので、これもレポートはドイツ語で書きました。みなさんは、せつかく大学にいますから、フ  
20 ランスやドイツやイギリスにいかなくても、授業でそういう機会があるのですから、それを利用しない手はありません。ドイツ語だけとか、英語だけとか言っていないで、何語でもどんどん学んで授業に出て、どんどん書いて下さい。

そう言えば、院生のときには、何年続いたのかわかりませんが、ラテン語作文の演習がありました。今でもそんな授業が成立するのかなあ・・・

- 25 Q. 8 先生の講義は個性的でおもしろかったです。自分は二年次から西洋哲学を専攻するので、またよろしく願います。

A. 8 はい。TeX が使えるようになるとよいですね。

Q. 9 3ターム通しての授業だけだったという間だった。

メールは迷惑メールで届いていました。

- 30 A. 9 赤井からのメールがデフォルトで迷惑メールに分類されて届くという、先生や学生たちからも、直接、本人たちから、そのことを教えてもらっています。しかし、迷惑メールでさえ届いておらず、赤井が送ったメール自体が消失して届いていない人もいます。広島大学（のメールサーバ）にとっては、赤井（のメール）は迷惑で消すべき存在なのかもしれないと思ったりします。（最近、少し、状況が改善されたようですが）

- 35 そうすると、レポートの返却も直接現物を返却するほうが確実ですね。また、届くはずのメールも届いていない可能性もあるので、レポートの提出もメールに添付では届いているのかどうか少し心配です。

Q. 10 僕には迷惑メールでもなくちゃんと届いていました。

- 40 今こそ倫理専攻ですが、入学当初は哲学専攻を考えていました。入門を受けて西哲でもよかったなあと思いました。

A. 10 今からでも哲学にきますか。

きちんと赤井からのメールが届いているとは、広島大学のメールサーバはどのような基準で稼働しているのでしょうか。人によって区別？ 差別？ しているのでしょうか。

Q. 11 この間（かん）お世話になりました。本当にありがとうございました。先生のおかげでい

ろいろ勉強になりました。感謝します。Yeah!

前回の内容ですが、実はニーチェのピアノ曲が意外でもなく、明るい混雑感があると思います。ニーチェの思想にあまり詳しくありませんが、彼に関する逸話とかいくつか知っています。それらに基づいてその曲を聞き終わったとき、「ああ、やはりニーチェだな」と感嘆しました。高揚したり、低吟したりして、激昂したり穏やかになったりしている旋律に美しい人の声を添えて、ニー

5

チェの思想の宇宙に相違ないと思います。こういう曲を書ける人が最後は気が狂うことになっても意外ではないと思います。

授業のおかげで完全に入門できたという保証がまだはっきりしないですが、なんとか一つの道を探せました。紹介された本をちゃんと読むつもりです。これからも勉強を続けます。

10 A. 11 率直な感想を書いていただいてありがとうございます。日本に来て最初に受けた授業がこの授業だったのがよかったのかどうか。哲学の授業がみんなこんな授業ではないと思いますので、他の先生の授業も受けて学んで下さい。

Q. 12 ありがとうございます。

A. 12 どういたしまして。